授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	自動車材料	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	関根　健・中村　泰史						

実務経験教員授業	非該当	総時限	6時限	授業方法	講　義	評価方法	期末試験

〔授業概要・目的〕

＊三級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要な自動車材料の基礎知識を習得する。

＊自動車整備作業に関係する自動車のリサイクル対応の予備知識の習得。

〔授業の到達目標〕

① 金属材料の性質・種類および加工処理方法が理解できる。

② 非金属材料の性質・種類および加工処理方法が理解できる。

③ リサイクル方法と必要性が理解できる。

〔学習評価の基準〕

試験点数の基準を、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

〔使用教科書・教材等〕

＊『自動車材料』　全国自動車整備専門学校協会　＊　自前プリントをレジュメとして、別途配付。

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	1	総論・自動車材料の構成と動向＊金属材料の性質・金属の通性、結晶、試験法、検査法
	1	鉄鋼材料（Ⅰ）・製造工程、かたさ試験、炭素鋼の性質、熱処理
	1	鉄鋼材料（Ⅱ）・特殊鋼、鋼板、熱処理、鋳鉄
	1	非鉄金属材料・アルミニウム合金、マグネシウム合金、銅合金
	1	非金属材料・軸受合金、焼結合金、プラスチック、塗装、ゴム、ガラス、セラミック、複合素材
	1	総まとめ・非金属材料、モノコックボディー、自動車材料の要点整理、演習問題

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	図面	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	中村　泰史						

実務経験教員授業	非該当	総時限	4時限	授業方法	講　義	評価方法	期末試験

〔授業概要・目的〕

＊三級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要な図面の基礎知識を習得する。

＊整備士として業務で用いるマニュアル等の図が理解でき、簡単な図が描ける知識を習得する。

〔授業の到達目標〕

① 製図の意義と重要性を理解し、線の種類と用法を理解する。

② 各種図法表現の理解と寸法の記入方法を理解する。

③ 部品等を観察し、簡単な図が描けること。

〔学習評価の基準〕

試験点数の基準を、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

〔使用教科書・教材等〕

＊『製図』　全国自動車整備専門学校協会　＊　自前プリントをレジュメとして、別途配付。　＊断面サンプル

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）	
	1	製図の意義と重要性及び規格/図面の大きさ及び様式	
	1	線、文字、尺度/図形の表し方/寸法記入の方法	
	1	実物での確認（演習）/現物と各種図法表現の理解	
	1	その他の製図による指示方法/ボルトによる現物確認（演習）	

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	基礎自動車工学	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	春原　雄一(一級整備士)・加賀美　直人						

実務経験教員授業	非該当	総時限	8時限	授業方法	講　義	評価方法	

〔授業概要・目的〕

＊ 新入生に対して、自動車の全体像を理解させ、その後の本格授業への意識付けを行う。

＊自動車の専門用語、専門単位に触れ、技術者の卵としての意識付けを行う。

〔授業の到達目標〕

① 自動車の概要、基本構造を理解する。

② 専門用語の意味を理解する。

〔学習評価の基準〕

評価なし

〔使用教科書・教材等〕

＊『基礎自動車工学』『基礎自動車整備作業』

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
	1	導入	
	1	自動車の概要(概要)	
	1	自動車の構造(エンジン本体Ⅱ)	
	1	自動車の構造(エンジン本体Ⅱ)	
	1	自動車の構造(動力伝達)	
	1	自動車の構造(アクスル及びサスペンション)	
	1	自動車の構造(車体関係)/自動車の諸元	
	1	自動車の材料	

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	自動車総論	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	2023/4/3
						開講期	後期
教科担当	春原雄一(一級自動車整備士)・中村泰史・関根 健・臼居 史也・中村 智恵 加賀美 直人・細川 正博・福泊 篤史・谷口 啓						

実務経験教員授業	非該当	総時限	10時限	授業方法	講 義	評価方法	期末試験

〔授業概要・目的〕

＊三級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要な計算方法を習得する。

＊整備士として業務で用いる計算式が理解でき、計算方法を習得する。

〔授業の到達目標〕

・車が走行に関わる数字が一連の姿としてつながるようになる

・軸重、減速、増速、速度についての計算ができる

・圧力、体積、圧縮比についての計算ができる

〔学習評価の基準〕

試験点数の基準を、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

〔使用教科書・教材等〕

＊ 『計算問題を解くノウハウ』 整研出版社 ＊ 自前プリントをレジュメとして、別途配布。

授 業 計 画 表 No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	2	トランスミッションのギヤ比計算/練習問題
	2	排気量と総排気量/圧縮比/平均ピストン速度/カム・リフト/出力計算/練習問題
	2	プラネタリ・ギヤ/プーリーの変速比/プーリに掛かるトルクと力/練習問題
	2	圧力と力とパスカルの原理/ブレーキと油圧計算/トルク・レンチの計算/練習問題
	2	ギヤ計算の復習/駆動トルク、駆動力/車速計算/練習問題

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	総合自動車Ⅰ	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	2023/4/3
						開講期	前期
教科担当	春原雄一(一級自動車整備士)・中村 泰史・関根 健・臼居 史也・中村 智恵 加賀美 直人・細川 正博・福泊 篤史・谷口 啓						

実務経験教員授業	非該当	総時限	4時限	授業方法		評価方法	

〔授業概要・目的〕

・学科授業の理解度確認のための期末及び単元試験を実施する。

〔授業の到達目標〕

〔学習評価の基準〕

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表		No. 1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	4	前期
		・エンジン構造期末試験(2時限)
		・シャシ構造期末試験(2時限)

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	学・エンジン構造	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	2023/4/3
						開講期	前期
教科担当	加賀美　直人・細川 正博・谷口　敬・福泊 篤史						

実務経験教員授業	非該当	総時限	40時限	授業方法	講　義	評価方法	単元・期末試験

〔授業概要・目的〕

＊二級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要となる三級自動車整備士レベルの二輪及び4輪自動車エンジンの基礎知識・技術を習得する。

＊二輪については、ホンダ2輪サービスエンジニアHMSE3級習得に向けての基礎習得

＊四輪については、ホンダ四輪サービスエンジニア3級に向けての基礎習得及び国家資格3級レベルの習得

〔授業の到達目標〕

① 二輪・四輪の各装置の概要・構造・機能・整備を理解する。

② 燃料の精製・性状・添加剤・取り扱い上の注意を理解する。

③ 潤滑剤の目的・種類を理解する。

④ 基礎的な原理・法則の電気・磁気を理解する。

〔学習評価の基準〕

試験点数の基準を、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

〔使用教科書・教材等〕

＊『基礎自動車工学』『三級自動車ガソリン・エンジン』『三級二輪自動車』

:日本自動車整備振興会連合会 『電装品構造』『内燃機関、燃料・油脂』:全国自動車大学校・整備専門学校協会

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
	1	内燃機関の概要と分類	
	1	4サイクル・ガソリン・エンジン概要	
	1	エンジン本体1・概要(直列型エンジン、V型エンジン、水平対向型エンジン)、構造・作動(シリンダ・ヘッド関連)	
	1	エンジン本体2・構造・作動(ピストン関連)	
	1	エンジン本体3・構造・機能(コンロッド、クランクシャフト関連)	
	1	エンジン本体4・構造・機能(バルブ機構関連)	
	1	エンジン本体5・構造・機能(バルブ機構関連)、単気筒の行程関連	
	1	4気筒の行程関連	
	1	電装基礎1(電気の基礎)	
	1	電装基礎2(電気回路とは、単位の表示、オームの法則、キルヒホッフの法則、回路計算)	
	1	基礎理論1・基本的な原理・法則(磁気、コイル)	
	1	基礎理論2・基本的な原理・法則(リレー、モーター)	
	1	始動装置1・概要・構造(モータ、オーバランニング・クラッチ)	
	1	始動装置2・機能(回転力の発生、始動装置の作動)	

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	学・エンジン構造	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期

授 業 計 画 表　　No. 2

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	1	バッテリ1・概要・構造（バッテリの種類）
	1	バッテリ2・機能（放電、充電、容量、自己放電、型式）、整備（液料及び比重の調整と測定）
	1	配線図1・基礎（構成、見方）
	1	配線図2・基礎（始動装置の抜き取り）
	2	練習問題・学科練習問題の実施
	1	前半復習・学科練習問題の実施
	1	冷却装置1・概要・構造・機能（ウォータ・ポンプ）
	1	冷却装置2・構造・機能（ラジエータ、サーモスタット、ファン）
	1	冷却装置3・不凍液、熱の移動（伝導、対流、放射）
	1	潤滑剤・種類（エンジン・オイル、ギヤ・オイル、グリース）
	1	潤滑剤・目的と作用（減摩、冷却、緩衝、防錆、密封、清浄）
	1	潤滑剤・エンジンオイル（粘度、分類、清浄）、グリース
	1	潤滑装置・概要・構造・機能（オイルの循環、ピストンの冷却、オイルポンプ、オイル・フィルタ、オイル・パン）
	1	燃料・種類（ガソリン、軽油、LPG、CNG）、石油精製法
	1	燃料・発熱量・ガソリン（製法、性状、添加剤、注意点）
	1	燃料装置・概要・構造・機能（インジェクタ、フューエルポンプ、プレッシャレギュレータ関連）、熱・燃焼（引火点、発火点
	1	4気筒の行程関連（復習）
	1	吸排気装置1・概要・構造・機能（エアクリーナー、スロットルボデー関連）
	1	吸排気装置2・整備（エアクリーナー）、排出ガス浄化装置（触媒コンバータ）
	1	充電装置1・概要・構造（オルタネータ関連）
	1	充電装置2・構造（レギュレータ関連、発電の原理）、半導体（ダイオード）
	1	点火装置1・概要・構造（点火の基礎、気筒別独立点火方式）
	1	点火装置2・概要（イグニッションコイル、ハイテンションコード、CDI点火方式）
	2	練習問題・学科練習問題の実施

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	シャシ構造	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	2023/4/3
						開講期	前期
教科担当	春原雄一(一級自動車整備士)・中村 泰史・関根 健・臼居 史也・中村 智恵						

実務経験教員授業	非該当	総時限	40時限	授業方法	講 義	評価方法	単元・期末試験

〔授業概要・目的〕

二輪及び四輪自動車のシャシ系装置について、基本構造と名称及び作動の理解を目的とする。

〔授業の到達目標〕

＊ 基本構造と名称の習得　＊ 各部品の役割と機能の習得　＊ 作動(動き)と動力伝達の習得

＊電気の基礎知識の習得　＊電気装置の作動の習得　＊電気の基礎計算の習得　＊電気装置の作動の習得

※整備士としての、心構え, 基礎知識

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普 通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

三級自動車シャシ, 電装品構造, 三級二輪自動車, HMSE3級, テキスト, 他

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
	4	動力伝達装置/概要/クラッチ	
	3	動力伝達装置/トランスミッション	
	2	動力伝達装置/プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフト	
	2	動力伝達装置/ディファレンシャル、ファイナル・ギヤ	
	2	動力伝達装置/アクスル、サスペンション/ショック・アブソーバ	
	4	ステアリング装置	
	2	ホイール、タイヤ/概要/構造・機能	
	3	ブレーキ装置/概要/構造・機能	
	1	フレーム、ボデー(四輪、二輪)	
	2	湿式多板クラッチ (二輪)	
	2	トランスミッション (二輪)	
	1	二輪サスペンション	
	1	二輪ステアリング	
	2	二輪Vマチック単体	
	1	電気導入1、概要、静電気、電流、電流とは、電流の方向と大きさ、摩擦と電気、自由電子他	
	1	電気導入2、配線図の活用方法、電気用図記号 他	

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	シャシ構造	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期

授 業 計 画 表　　No. 2

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	2	基礎理論1，2 （電気回路の計算）
	2	基礎理論3，4 （電流と電圧，抵抗の計測）
	2	灯火装置1（ヘッドランプ）
	1	灯火装置2（その他照明装置）

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	学・エンジン整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	2023/4/3
						開講期	後期
教科担当	加賀美　直人・細川　正博・福泊　篤史・谷口　啓						

実務経験教員授業	非該当	総時限	28時限	授業方法	講　義	評価方法	単元・期末試験

〔授業概要・目的〕

＊二級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要となる三級自動車整備士レベルの二輪及び

4輪自動車エンジンの基礎知識・技術を習得する。

＊二輪については、ホンダ2輪サービスエンジニアHMSE3級習得に向けての基礎習得

＊四輪については、ホンダ四輪サービスエンジニア3級に向けての基礎習得及び国家資格3級レベルの習得

〔授業の到達目標〕

① 二輪・四輪の各装置の概要・構造・機能・整備を理解する。

② 燃料の精製・性状・添加剤・取り扱い上の注意を理解する。

③ 潤滑剤の目的・種類を理解する。

〔学習評価の基準〕

試験点数の基準を、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

〔使用教科書・教材等〕

＊『三級自動車ガソリン・エンジン』『三級自動車ジーゼル・エンジン』『三級二輪自動車』: 日本自動車整備振興会連合会

『電装品構造』『内燃機関、燃料・油脂』: 全国自動車大学校・整備専門学校協会

『ホンダHMSE3級テキスト』: (株)ホンダモーターサイクルジャパン

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
	1	前期学科復習・前ローテの練習問題を実施	
	1	二輪エンジン・整備・二輪車の定期点検(エンジン本体の点検項目)	
	1	ジーゼル・エンジン構造1・総論・内燃機関の分類・ジーゼル・エンジン概要・エンジン本体	
	1	ジーゼル・エンジン構造2・燃料装置・予熱装置・燃料及び潤滑剤	
	1	始動装置1・概要・構造(モータ、オーバランニング・クラッチ)	
	1	始動装置2・機能(始動装置の作動)・整備(車上における点検、スタータの取外し及び取付け)	
	1	充電装置1・概要・構造・機能(発電の原理、ダイオードによる整流の原理、オルタネータの起電力制御の原理)	
	1	充電装置2・機能(充電回路の作動)・整備(車上における点検)・バッテリ整備	
	1	電子制御装置1・概要・構造・機能(吸気系統)	
	1	電子制御装置2・構造・機能(吸気系統、燃料系統、点火系統)	
	1	電子制御装置3・構造・機能(制御系統)	
	1	電子制御装置4・整備(吸気系統、燃料系統、制御系統)	
	2	練習問題・学科練習問題を実施	
	1	前ローテ復習・前ローテの練習問題を実施	

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	学・エンジン整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期

授 業 計 画 表　　No. 2

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	1	潤滑・冷却装置整備・整備（オイル・ポンプ、オイル・パン、ウォータ・ポンプ、ラジエータ及びサーモスタット）
	1	エンジン本体整備１　・整備（シリンダ・ヘッド及びブロック、ピストン、ピストン・ピン及びピストン・リング）
	1	エンジン本体整備２・整備（バルブ機構）
	1	エンジン本体整備３・整備（コンロッド及びクランクシャフト、各ベアリング、フライホイール及びリング・ギヤ）
	1	行程関連・直列2気筒・直列４気筒・直列３気筒
	1	排出ガス対策１・総論（排出ガスの発生過程とその成分、排出ガス浄化の対応策）・排出ガス浄化装置
	1	排出ガス対策２・総論　排出ガス浄化装置・総論（ジーゼル・エンジンの排出ガス、排出ガス浄化装置）
	1	点火装置整備１・概要・構造・機能（点火の基礎、気筒別独立点火方式（ダイレクト・イグニッション・コイル））
	1	点火装置整備２・構造・機能　気筒別独立点火方式・整備（イグニッション・コイル、スパーク・プラグ）
	1	二輪点火装置整備・概要・構造・機能（CDI点火装置、トランジスタ点火装置）・整備（スキャン・ツール）
	1	二輪充電装置整備・概要・構造・機能(マグネット式と励磁式のオルタネータ)・整備（充電装置、バッテリ）
	2	練習問題・学科練習問題を実施

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	シャシ整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	春原雄一(一級自動車整備士)・中村 泰史・関根 健・臼居 史也・中村 智恵						

実務経験教員授業	非該当	総時限	28時限	授業方法	講 義	評価方法	単元・期末 試験

〔授業概要・目的〕

二輪及び四輪自動車のシャシ系各装置について、基本構造の復習と更なる理解度の向上を目的とする

〔授業の到達目標〕

二輪及び四輪自動車シャシの各装置について、基本構造の理解度を上げると共に、整備法の基本を理解させる。

各部品の点検, 調整, 測定, メンテナンスの要領習得

四輪車両において、定期点検(12カ月点検)及び記録簿の記入要領の習得

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

三級自動車シャシ, 電装品構造, 三級二輪自動車, HMSE3級, テキスト, 他

授 業 計 画 表 No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	1	●授業項目 (前半) 走行性能曲線
	0.5	●授業項目(後半) 安全装置
	2	●授業項目(前半) クラッチ整備法
	2	●授業項目(前半) トルク・コンバータ
	2	●授業項目(前半) AT
	1	●授業項目(後半) 動力伝達装置整備法
	1	●授業項目(後半) アクスル・サス整備法
	1	●授業項目(後半) タイヤ・ホイール整備法
	2	●授業項目(後半) ホイール・アライメント1, 2
	1	●授業項目(前半) ブレーキ(復習)
	1	●授業項目(前半) ブレーキ整備法
	1	●授業項目 Pバルブ
	2	●授業項目(後半) 制動倍力装置
	0.5	●授業項目(後半) 二輪ブレーキ
	1	●授業項目(後半) 定期点検の要領
	1	●授業項目(前半) 基礎理論(復習)

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	シャシ整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期

授 業 計 画 表　　No. 2

	1	●授業項目（後半） 半導体
	1	●授業項目（前半） 灯火装置
	1	●授業項目（前半） 保安装置1
	1	●授業項目（後半） 保安装置2、パワーウインド
	2	●授業項目（後半） エアコン
	1	●授業項目（前半） 到達度確認 1
	1	●授業項目（後半） 到達度確認 1

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	総合自動車Ⅱ	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	春原雄一(一級自動車整備士)・中村 泰史・関根 健・臼居 史也・中村 智恵 加賀美 直人・細川 正博・福泊 篤史・谷口 啓						

実務経験教員授業	非該当	総時限	4時限	授業方法		評価方法	

〔授業概要・目的〕

・学科授業の理解度確認のための期末及び単元試験を実施する。

〔授業の到達目標〕

〔学習評価の基準〕

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
	4	後期 試験規定に則って実施	
		・エンジン整備期末試験(2時限)	
		・シャシ整備期末試験(2時限)	

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車整備	科目	二輪車整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	春原雄一(一級自動車整備士)・中村 泰史・関根 健・臼居 史也・中村 智恵 加賀美 直人・細川 正博・福泊 篤史・谷口 啓						

実務経験教員授業	非該当	総時限	2時限	授業方法	講 義	評価方法	期末試験

〔授業概要・目的〕

※ 二輪車エンジン、フレーム、電装の各装置について、基本構造と整備の理解度試験

〔授業の到達目標〕

＊ 基本構造と名称の習得確認

＊ 各部品の役割と機能の習得確認

＊ホンダ2輪サービスエンジニアHMSEの基礎習得確認

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

〔使用教科書・教材等〕

3級二輪自動車、ホンダHMSE3級テキスト(二輪)、電卓

No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	1	二輪授業全般の総復習
	1	二輪授業全般復習 、ホンダ2輪サービスエンジニアHMSEの復習

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 機器の構造・取扱い	科目	機器の構造・取扱い	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	前後期
教科担当	春原雄一(一級自動車整備士)・中村 泰史・関根 健・臼居 史也・中村 智恵 加賀美 直人・細川 正博・福泊 篤史・谷口 啓						

実務経験教員授業	非該当	総時限	19時限	授業方法	講 義	評価方法	

〔授業概要・目的〕

＊整備工具･機器の取扱いを理解する
＊自動車整備に必要な電気の基礎知識を養う
＊研究課題を通して、使用する機器を理解する。
＊電気に関する測定の基礎を養う
＊新技術について調べる。
＊サーキットテスタの基本的な使い方を学ぶ
＊製品に使用される機器について調べる。
＊パーツリストの見方を学ぶ
＊HDSの機能と操作方法を学ぶ

〔授業の到達目標〕

＊実際の測定機器の取り扱いを通し、正確な数値の読み取りが出来る。
＊研究課題発表にてサービスマンとして、調べる、資料作り、発表するのスキルを身につける。
＊電気の基礎知識を習得し、測定方法を学ぶ。
＊パーツリストをみて部品検索ができる事
＊HDSの機能と操作が出来る事

〔学習評価の基準〕

〔使用教科書・教材等〕 基礎自動車工学、基礎自動車整備作業、3級ガソリン・エンジン、3級シャシ
3級二輪自動車、電装品構造、定期点検整備の手引き、ホンダHMSE3級テキスト(二輪)、パソコン

授 業 計 画 表 No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	1	導入 /電子・静電気・電流・電圧
	1	電流の三作用/電源と起電力・直流と交流・電気抵抗/電気回路図・回路図記号・オームの法則
	1	直列接続と並列接続(合成抵抗)/電圧降下・キルヒホッフの法則/接頭語
	4	導入・基礎回路測定
	2	パーツ・リスト/部品の流通/パーツリストの役割/部品番号の仕組み
	1	検査機器の取り扱い/検査ラインの構成/測定機器の保守と測定方法/各種テスタの基準
	1	故障診断システムの概要/ダイアグノーシス･コード/HDS機能、操作方法の概要
	1	自動車法令(道路運送車両法)/道路運送車両法の意義と目的/道路運送保安基準とは
	1	総合復習(練習問題:法令、機器)
	2	機器取扱い/自動車整備工具･機器/測定機器の取り扱い
	2	現状確認(グループ討議:エンジンに関する技術の選定)
	2	研究課題発表(グループ発表)

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	工作作業	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	春原雄一(一級自動車整備士)・中村 泰史・関根 健・臼居 史也・中村 智恵 加賀美 直人・細川 正博・福泊 篤史・谷口 啓						

実務経験教員授業	該当	総時限	13時限	授業方法	実習・実技	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

整備士の心構えと、基礎工作作業の修得

＊基本作業を理解し、安全作業を身に着ける。

＊各種の機器，工具の使い方を学ぶ。

〔授業の到達目標〕

○スマートフォンスタンド製作を通して各種工具を使用し、工具の取り扱いが正しくできる

○スマートフォンスタンド製作を通して安全な作業ができる

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕

基礎自動車工学・基礎自動車整備作業

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
○	4	整備の基礎知識/安全作業に対する注意事項/基本的なハンドルールの使用方法
○	4	工作機器の取り扱い方法(ケガキ，ポンチ，タップ，ダイス，電気ドリル，弓のこ,ねじ切り作業)
○	4	アルミ板の加工、曲げ加工(端面、表面の仕上げ)、ヘリサート加工、
○	1	ねじ抜き取り(折れたボルト、スタッドの抜き取り方法、スクリューエキストラクタ)

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 測定作業	小教科目	測定作業	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	通期
教科担当	春原雄一(一級自動車整備士)・中村 泰史・関根 健・臼居 史也・中村 智恵 加賀美 直人・細川 正博・福泊 篤史・谷口 啓						

実務経験教員授業	該当	総時限	25時限	授業方法	講 義	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕 二輪四輪自動車シャシの実践整備の、点検整備における測定作業の習得

点検整備において、各種測定具を用いて、正しく精度よく測定を行うスキルを向上する

回路図・電圧降下を理解し、正しいアース基準の電圧測定による導通点検(測定)

〔授業目標〕

～1 自動車整備作業に使用する工具及び測定機器類の名称、構造、用途、種類を理解する。

～2 工具及び測定機器類の正しい使用方法を習得する。

～3 測定作業の目的、測定誤差の種類と注意を理解させる。

～4 安全作業の大切さを理解させる。

～5 二輪車の日常点検/軽整備/消耗部品の交換作業を通じて、基本構成部品の全体レイアウトを確認させる。

～6 回路図・電圧降下を理解し、正しいアース基準の電圧測定による導通点検(測定)が出来る。

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表 No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
○	4	日常点検/点検測定要領/簡単な良否判定/工具の使い方(スパナ、各種レンチ)
○	1	オシロスコープの取り扱い/本体の機能、使用方法、プローブの使用方法
○	1	オシロスコープ波形の読み取り/ｼｽﾃﾑﾎﾞｰﾄﾞにて波形の確認作業/サンプル波形からの数値読取作業
○	4	エンジンの作動原理/混合気と燃焼/4ストロークエンジン原理
		エンジンの構造/エンジン内部構造観察/各部測定/ホイール脱着
○	4	基本工具取扱い(ハンマ、プライヤ、ガレージ・ジャッキ、リジット・ラック、輪止め、十字レンチ他)
○	1	レポート作成方法(実習レポート記入の基礎練習)
○	4	・GX120エンジンの測定作業
○	1	ブレーキ点検整備、測定法(ディスク・ブレーキ、ドラム・ブレーキ)
○	1	実車整備点検における測定法(日常点検、ブレーキ、タイヤ)
○	2	測定効果確認試験
○	2	抵抗・電圧測定、導通点検/エアコン装置部品理解
○	2	実力確認

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	実・エンジン構造	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	加賀美　直人・細川　正博・福泊　篤史・谷口　啓						

実務経験教員授業	非該当	総時限	80時限	授業方法	講　義	評価方法	単元・期末試験　レポート評価

〔授業概要・目的〕

＊二級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要となる三級自動車整備士レベルの二輪及び4輪自動車エンジンの基礎知識・技術を習得する。

＊二輪については、ホンダ2輪サービスエンジニアHMSE3級習得に向けての基礎習得

＊四輪については、ホンダ四輪サービスエンジニア3級に向けての基礎習得及び国家資格3級レベルの習得

〔授業の到達目標〕

① 整備士としての、心構え、基礎知識及び基本作業が実践できること。

② 二輪・四輪の各装置の概要・構造・機能・整備を理解する。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

試験点数の基準を、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

＊『基礎自動車工学』『三級自動車ガソリン・エンジン』『三級二輪自動車』:日本自動車整備振興会連合会

『電装品構造』:全国自動車大学校・整備専門学校協会、『エンジン構造電装テキスト』『実習用テキスト』

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	8	・4サイクル・ガソリン・エンジン(OHV型)の基本構造の理解(GX120)
	4	・4サイクル・ガソリン・エンジン(OHC型)の行程、部品名称、役割の理解(C50)
	8	・4気筒の行程関連を理解する(R20A型)シリンダーヘッド周り分解
	2	・電装基礎(アナログ・サーキット・テスタ取扱い/デジタル・サーキット・テスタ取扱い)
	4	・電流と磁気(電気の基本的な原理を理解する。直流、交流、電気抵抗、磁気、回路)
	4	・始動装置(始動装置の回路の構成を理解する。モータの種類、マグネット・スイッチ。分解組立)
	4	・始動装置(実車による理解、車上点検、測定、バッテリの基本と点検)
	2	・実習授業のスキル確認を実施
	4	・SOHC型ガソリン・エンジンのタイミング・ベルト脱着作業の習得(D16A)、行程関連、バルブ・クリアランス
	4	・4気筒4サイクル・ガソリン・エンジンの行程関連、役割を理解する(CB1100)、行程関連、バルブ・クリアランス
	12	・シリンダ・ヘッドの分解・組立の復習(R20A)
	2	・行程関連を理解する
	4	・キャブレータの基礎理解、キャブレータとインジェクションの違い理解
	4	・点火装置の各部の名称と役割を理解(単品)

教科	実習 自動車整備作業	科目	実・エンジン構造	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期

授 業 計 画 表　　No. 2

	2	・点火装置（回路図と実車の構造を理解する）、スパーク・プラグ、点火時期点検
	4	・オルタネータの部品名称、構造、機能を理解（単品）
	2	・オルタネータ、バッテリ、電気負荷の関係回路を理解する（実車）
	4	・吸排気装置の名称、構造、機能を理解する
	2	・実習授業のスキル確認を実施

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	シャシ構造	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	春原雄一(一級自動車整備士)・中村 泰史・関根 健・臼居 史也・中村 智恵						

実務経験教員授業	非該当	総時限	80時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元・期末試験

二輪及び四輪自動車シャシの各装置について、基本構造, 作動, 機能, 名称の習得を目的とする。

〔授業の到達目標〕

＊ 基本構造と名称の習得 ＊ 各部品の役割と機能の習得 ＊ 作動(動き)と動力伝達の習得

＊ 電気の基礎知識を習得 ＊ サーキットテスタの構造を理解し、正しい取り扱いの習得

※ 二輪については、HMSE-3級修了に向けての基礎習 ※ 整備士としての、心構え, 基礎知識, 及び基本作業

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

三級自動車シャシ, 電装品構造, 三級二輪自動車, HMSE3級, テキスト, 他

授 業 計 画 表 No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)式
	4	タイヤ＆ホイール 種類, 各表示記号 タイヤ・チェンジャ及びホイール・バランサの使用方法
	4	乾式単板クラッチ 基本構造, 名称, 機能及び動力伝達経路と動力断続の仕組み
	6	FR用トランスミッション 分解, 組立及び構造, 機能, 名称
	4	サスペンションとアクスル 構造, 機能, 名称, 種類
	4	ブレーキ装置1 マスタ・シリンダ及びディスク式ブレーキの構造, 機能, 名称
	4	ブレーキ装置2 ドラム式ブレーキの構造, 機能, 名称, 役割
	4	ステアリング操作機構・ギヤ機構(ラック・ピニオン型)の分解, 組立、構造, 機能, 名称
	4	ステアリング・ギヤ機構(ボール・ナット型)の分解, 組立、構造, 機能, 名称
	4	ファイナルギヤ及びディファレンシャルとドライブシャフトの分解, 組立、構造, 機能, 名称
	2	〔2輪〕ベルト式無段変速機(Vマチック)の分解, 組立、構造, 機能, 名称
	4	〔2輪〕フロント・フォークの分解, 組立、構造, 機能, 名称
	4	〔2輪〕湿式多板クラッチ＜Ape＞の分解, 組立、構造, 機能, 名称
	4	電気工作 はんだと配線 カプラの作成,種類,脱着方法
	4	基礎 導入(実習での注意事項)及び配電ボードでの結線と測定
	2	電圧測定1(単品)プラス制御とマイナス制御 回路図から回路を作成し電圧の有無の特定
	2	電圧測定2 (復習) 不具合箇所の特定、電圧(電位差)変化箇所の特定
	4	灯火装置1 配線図、配線色の解読及びスイッチ類の点検, 接続

教科	実習 自動車整備作業	科目	シャシ構造	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期

授 業 計 画 表　　No. 2

	4	灯火装置2　実体配線図の解読及びテスタによる電圧降下の点検
	2	灯火装置3（2輪ボード）ステム・ボードの各灯火装置及びランプ、スイッチ類の消費電流
	2	灯火装置4（2輪実習）回路図と実車の回路比較及びテスタによる点検、抵抗点検
	2	スキルチェック（シャシ）　実習の総合復習
	2	スキルチェック（電装）　　実習の総合復習
	2	授業項目（前半・後半）理解度確認　（シャシ）
	2	授業項目（前半・後半）理解度確認　（電装）

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	実・エンジン整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	加賀美　直人・細川　正博・福泊　篤史・谷口　啓						

実務経験教員授業	非該当	総時限	84時限	授業方法	講　義	評価方法	単元・期末試験　レポート評価

〔授業概要・目的〕

＊二級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要となる三級自動車整備士レベルの二輪及び4輪自動車エンジンの基礎知識・技術を習得する。

＊二輪については、ホンダ2輪サービスエンジニアHMSE3級習得に向けての基礎習得

＊四輪については、ホンダ四輪サービスエンジニア3級に向けての基礎習得及び国家資格3級レベルの習得

〔授業の到達目標〕

① 整備士としての、心構え、基礎知識及び基本作業が実践できること。

② 二輪・四輪の各装置の概要・構造・機能・整備を理解する。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

試験点数の基準を、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

＊『三級自動車ガソリン・エンジン』『三級二輪自動車』:日本自動車整備振興会連合会

『電装品構造』:全国自動車大学校・整備専門学校協会、『エンジン構造電装テキスト』『実習用テキスト』

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
	2	前期復習　実習授業復習を実施	
	4	・90°　V型エンジンの行程関連を理解する(VT250)	
	4	・ジーゼル・エンジンの概要、部品名称、構造・機能を理解する	
	8	・DOHC型直動式ガソリン・エンジンのバルブ・シム調整を習得(CB400SF)	
	4	・オルタネータの部品、名称、構造、機能を理解する(単品)	
	4	・テスタ類を使用した、充電装置の測定を習得する(実車)	
	4	・始動装置の分解・組立及び部品、名称、構造・機能を理解する(単品)	
	4	・始動装置　実車での始動装置の点検方法の習得　・バッテリの良否判定の習得	
	4	・電子制御装置の部品名称、取付け位置、構造及び機能を理解する(Eng単体)	
	4	・電子制御装置　実車の電子制御装置の位置、名称、役割を理解する。	
	2	スキルチェック　・実習授業のスキル確認を実施	
	2	後期前半の復習　・後期前半実習授業復習を実施	
	4	・3気筒ガソリン・エンジンの行程関連、バルブ・クリアランス調整の習得(E07Z)	
	4	・測定具の正しい使い方(ノギス、マイクロ・メータ、スコヤ、定盤、ダイヤル・ゲージ、シリンダ・ゲージ等)	

教科	実習 自動車整備作業	科目	実・エンジン整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期

授 業 計 画 表　　No. 2

	8	・エンジン部品の整備項目、測定具、測定方法、良否判定を理解する（R20A）
	2	・点火装置（単品）一次電流の断続方法が理解。転科時期コントロールの理解
	2	・点火装置（実車）点火装置回路各部の点検ができる
	4	・基本的な点火装置の回路、作動機能理解（二輪車）
	4	・二輪始動装置の回路図から実車配線との比較、検証。テスタによる測定。
	4	・二輪故障診断　機器を使用した故障診断、整備方法の理解
	4	・エンジン総合整備　定期点検、日常点検のエンジン関連項目の実施
	2	・実習授業のスキル確認を実施

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	シャシ整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期

教科担当	春原雄一(一級自動車整備士)・中村 泰史・関根 健・臼居 史也・中村 智恵						
実務経験教員授業	非該当	総時限	84時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元・期末試験

〔授業概要・目的〕

二輪及び四輪自動車シャシの各装置について、基本構造，作動，機能，名称の復習と各装置の整備法の習得を目的とする。

〔授業の到達目標〕

各装置の点検，調整，測定の要領を習得、定期点検(12カ月点検)導入，及び記録簿の記入要領の習得

シャシ電装品各装置の機能・構造・作動・整備項目の理解、電装品の簡単な点検と良否判定の習得

HMSE3級資格取得に向けての習熟 ※整備士としての、心構え，基礎知識の習熟と、応用作業が実践出来る基礎の習得

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

三級自動車シャシ，電装品構造，三級二輪自動車，HMSE3級，テキスト，他

授 業 計 画 表 No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	4	日常点検、オイル交換他
	4	オートマティック・トランスミッション構造
	4	オートマティック・トランスミッション構造/油圧制御
	4	タイヤ・ホイール整備Ⅱ
	8	ブレーキ整備Ⅰ、Ⅱ/ブレーキ単品での構造，機能復習
	4	真空式制動倍力装置(単品)
	2	制動倍力装置の機能点検(実車)
	6	ホイール・アライメント測定
	2	クラッチの作動点検と整備/クラッチ脱着
	4	[2輪]プロリンク・サスペンションと周辺構造
	4	[2輪] ディスク・ブレーキ点検整備
	4	[2輪]12ヶ月点検
	4	[4輪]12ヶ月定期点検＋日常点検
	2	電装 復習実習(PW)
	4	半導体(ダイオード、トランジスタ、論理回路、コンデンサ回路)
	4	保安装置1(ウインドシールド・ワイパ)

教科	実習 自動車整備作業	科目	シャシ整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期

授 業 計 画 表　　No. 2

	4	保安装置2（計器）
	2	灯火装置1（単品）
	2	灯火装置2 （実車）
	2	灯火装置3 （2輪）
	2	灯火装置4 （復習）
	4	パワーウインド （単品）
	4	エアコンディショナ　エアコンの基本作動（冷凍サイクル）

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	実・二輪車整備	二輪車整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
							開講期	後期
教科担当	谷口 敬・関根 健							
実務経験教員授業	非該当	総時限	4時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験	

〔授業概要・目的〕

※ 二輪車エンジン、フレーム、電装の各装置について、基本構造と整備の理解度試験

・前期、後期総合実習確認試験

〔授業の到達目標〕

＊ 基本構造と名称の習得確認

＊ 各部品の役割と機能の習得確認

＊ホンダ2輪サービスエンジニアHMSEの基礎習得確認

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕ﾉｷﾞｽ・ﾏｲｸﾛﾒｰﾀ・ﾀﾞｲﾔﾙｹﾞｰｼﾞ・ｻｰｷｯﾄﾃｽﾀｰ・ｽｹｰﾙ

3級二輪自動車、ホンダHMSE3級テキスト(二輪)、実車(カブ50・CB400・ｴﾝｼﾞﾝ単体)

授 業 計 画 表 No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	2	2輪自動車の構造、整備/始動・点火装置の点検/部品の測定/12ヵ月点検
	2	2輪自動車の確認試験/【1】始動装置の点検整備【2】各部の測定と良否判断【3】定期点検整備

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	総合自動車整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	通期
教科担当	春原雄一(一級自動車整備士)・中村　泰史・関根　健・臼居　史也・中村　智恵 加賀美　直人・細川　正博・福泊　篤史・谷口　啓						

実務経験教員授業	非該当	総時限	16時限	授業方法	実習・実技	評価方法	

〔授業概要・目的〕

・実習授業の理解度確認のための実技試験

〔授業目標〕

・詳細は試験規定にのっとって実施する。

〔使用教科書・教材等〕

・試験問題　・車両教材　・単品教材

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	2	・エンジン構造実習確認期末試験　1
	2	・シャシ構造実習確認期末試験　1
	2	・エンジン構造実習確認期末試験2
	2	・シャシ構造実習確認期末試験2
	2	・エンジン整備実習確認期末試験1
	2	・シャシ整備実習確認期末試験1
	2	・エンジン整備実習確認期末試験2
	2	・シャシ整備実習確認期末試験2

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	一般	科目	安全運転学	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	通期
教科担当	春原雄一(一級自動車整備士)・中村　泰史・関根　健・臼居　史也・中村　智恵 加賀美　直人・細川　正博・福泊　篤史・谷口　啓						

実務経験教員授業	非該当	総時限	13時限	授業方法	講　義	評価方法	

〔授業概要・目的〕

・自動車業界の一員であることを自覚し、規律の大切さと他人との協調を養う。。

・安全運転の思想『人間尊重』を学ぶ。

〔授業の到達目標〕

① 安全運転を中心に実施するが、整備時の安全に対する取り組みまで広げて理解させる

これらにより、交通社会において安全運転の実践のみならず、

職場(具体的には整備作業)での安全作業能力を養う。

〔学習評価の基準〕

〔使用教科書・教材等〕

セーフティライディング、セーフティードライビング、ニュートンブレーキ

授 業 計 画 表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	8	四輪安全運転講習(交通教育センターレインボー埼玉)四輪車運転の基本を学ぶ
	3	KYT(危険予知トレーニング)Ⅰ
	2	ブレーキの必要性・車間距離の話(テキスト:Newton Brake)

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	一般	科目	接客実務	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科1年	作成月日	23/04/03
						開講期	通期
教科担当	春原雄一(一級自動車整備士)・中村 泰史・関根 健・臼居 史也・中村 智恵 加賀美 直人・細川 正博・福泊 篤史・谷口 啓						

実務経験教員授業	非該当	総時限	10時限	授業方法	講 義	評価方法	評価なし

〔授業概要・目的〕

＊一年生に対し働くことの意味を理解させ、サクセスプランに結び付ける。

＊特に販社に対し、興味をもたせるようにする。

〔授業の到達目標〕

① 就職活動時に必要となるスキルを身に付けさせる。

② 広く接遇の基本マナーを身に着け、最小限のマナーを身につけさせる。

③ HONDAの企業活動の理解を通じ、接遇の基本を理解する。

④ コミュニケーション能力の向上を図る。

〔学習評価の基準〕

試験点数の基準を、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕

専科研修新人サービススタッフの基礎と接遇

授 業 計 画 表 No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
	1	HONDAの企業活動/HONDAの基本理念(自立・平等・信頼)及び社是・運営方針・企業活動	
	1	接遇の基本1/自己認識の重要性/自分の強み、性格、タイプを知る	
	1	仕事に対する興味と価値観/各自の興味と価値観を洗い出す	
	1	社会人に求められる「接遇マナーの基本」	
	1	第1印象の重要性	・身だしなみの重要性を理解
	1	名刺の扱い方(ロープレ)	・名刺の取り扱い方法
	2	2輪4輪の販売会社について	・直近状況を基に将来の進路を
	2	社会人に求められる「接遇マナーの基本」	(復習)

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	応用エンジン	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	岡地　智行・渡部　孝昭・木野内　英和(一級自動車整備士)・伝　弘幸・君塚　真之佑						

実務経験教員授業	非該当	総時限	19時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

・ ガソリン・エンジンの基本的構造、効率を理解する。

・ エンジン制御の必要性と電子制御装置の仕組みを理解する。

〔授業の到達目標〕

・ エンジンの作動、効率、排ガスについて理解すること。

・ 可変バルブタイミング／リフト機構の必要性と作動原理を理解する。

・ エンジン補機、アクチュエータの作動、制御を理解する。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

・二級ガソリン自動車エンジン編(日本自動車整備振興会連合会)、パワーポイント、i-Pad

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
	1	ガソリン・エンジンの燃焼、性能、損失、体積効率、充填効率、出力試験、ノッキング、排ガス発生理論等	
	1	燃焼室、シリンダ・ヘッド・ガスケット、シリンダ、ライナ突き出し高さ、ピストン、ピストン・リング、コンロッド、	
	1	一次慣性力・二次慣性力の発生メカニズム、振動低減方法のしくみ、バランサ機構の作動について	
	1	バルブ開閉機構　機構作動について理解する。	
	2	可変バルブ・タイミング機構の構造・作動・機能について理解する。	
	2	ホンダVTECシステムの種類、構造・作動・機能について理解する。	
	1	潤滑・冷却装置復習と、応用的機構(オイルの循環、冷却、油圧の制御)について理解する。	
	1	ダイオードの種類、整流回路、低電圧回路、スイッチング回路、発振回路、論理回路等を理解する。	
	2	バッテリの種類、機能、起電力、特性曲線、容量、始動性能、スタータの特性、各点検方法を理解する。	
	2	点火時期制御の必要性、実施内容、イグニッション・コイル、スパーク・プラグの仕組みを理解する。	
	2	電子制御装置の必要性、役割り、各センサの種類、仕組み、役割りを理解する。	
	1	インジェクタの駆動回路及び、ECUによる各制御内容を理解する。	
	1	ISCVの種類・役割・働き・各制御について理解する。	
	1	点火制御装置、電子スロットル装置について理解する。	

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	応用ジーゼル	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	岡地　智行・渡部　孝昭・木野内　英和(一級自動車整備士)・伝　弘幸・君塚　真之佑						

実務経験教員授業	非該当	総時限	18時限	授業方法	講　義	評価方法	期末試験

〔授業概要・目的〕

・ ジーゼル・エンジンの概要が理解できること。

・ コモン・レール式高圧燃料噴射装置の構造・作動が理解できること。

〔授業の到達目標〕

・ ジーゼルエンジンの燃料噴射機構の種類、特徴を理解する。

・ 噴射制御のパイロット、プレ、アフター、ポスト噴射の役割、名称を理解する。

・ サプライポンプの種類、流量制御方式を理解する。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

・二級ガソリン/ジーゼル自動車エンジン編(日本自動車整備振興会連合会)、パワーポイント、i-Pad

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
	2	始動装置/リダクション・スタータの仕組み、始動特性、スタータの特性、各点検方法	
	2	充電装置/励磁式オルタネータの仕組み、ボルテージ・レギュレータ、充電制御機能、各点検方法	
	2	ジーゼル・エンジンの工学関係(燃焼、性能、損失、効率等)	
	1	列型インジェクション・ポンプ本体の構造、作動、噴射量制御	
	2	コモンレール式高圧燃料噴射装置、各サプライ・ポンプ、ソレノイド式インジェクタの構造・作動	
	2	高圧燃料噴射装置に使用される各センサの作動・構造、ECUの働き	
	2	ユニット・インジェクタ式高圧燃料噴射装置／吸排気装置	
	1	予熱装置の必要性、種類、エンジンとの組み合わせ、グロー・プラグ	
	2	故障診断に備えたサービス・マニュアルの使い方を習得	
	2	電気回路点検復習/回路図より電気の流れ理解/電流・電圧の推理及び測定点検	

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	応用シャシ	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	駒崎 勝紀・大石 尚樹(一級自動車整備士)・河智 是明・成松 樹生・前田 優祐・小川 幸雄						

実務経験教員授業	非該当	総時限	36時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

2・3級シャシ教科書を基に、2級ガソリン・ジーゼルのシャシ系の構造、機能及び作動を理解させる。

〔授業目標〕

■走行抵抗と駆動力、駆動力と走行性能の関係　動力伝達装置の概要、構造・機能の理解

■アクスル・サスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ及びホイール・アライメントの概要、構造・機能の理解

■ブレーキ装置、フレーム及びボディの概要、構造・機能の理解

■電気装置、計器・警報装置、外部診断機、空気調和装置、電気装置の配線、付属装置の概要、構造・機能の理解

■保安基準適合性の確保、点検の目的・要領・記録簿の記入方法の理解

〔使用教科書・教材等〕

3・2級シャシ、電装品構造、自動車定期点検整備の手引き、配線図集、パーツリスト、サービスの基礎、PC

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	1	点検の目的・要領・点検整備要領 (四輪自動車、二輪自動車)
	1	フレーム及びボデー(構造の理解)
	2	ホイール及びタイヤ(構造・機能の理解、点検整備・摩耗の種類及び異常現象理解)
	3	アクスル及びサスペンション(構造・機能及び性能の理解)
	1	シャシ総論(自動車の性能、走行抵抗と駆動力及び走行性能)
	4	日産4ATの構造
		(プラネタリ・ギヤ式AT変速の仕組み、電子制御装置、油圧制御装置及び安全装置の理解)
	4	エアコン (構造・機能の理解 、オートエアコン、サブクール・コンデンサ・システム各制御の理解)
	1	パーツリスト(パーツ検索方法、部品及び工数の算出及び整備・注意点の理解
	3	ステアリング装置(旋回性能の理解、パワー・ステアリング、オイルポンプの構造・作動・機能の理解、
		電動パワー・ステアリングの理解)
	4	ブレーキ装置(大型ブレーキ機構・補助ブレーキ装置、性能、機能構造、制動時の不具合現象の理解
	2	差動機構(差動制限型・インタアクスルディファレンシャルの構造・機能及び作動の理解)
	2	ホイールアライメント(概要、構造・機能、アライメントの特性の理解)
	2	ABS・TCS(概要、構造・機能、作動の理解)
	2	計器・警報装置、多重通信、ナビゲーション(構造・機能、システム及び概要の理解)
	4	総合復習

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	自動車総論Ⅱ	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	浅井直道・岡地智行・大石尚輝・木野内英和・駒崎勝紀(一級自動車整備士) 河智是明・前田優佑・伝弘幸						

実務経験教員授業	非該当	総時限	19時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

・二級自動車整備士に必要な基礎計算力、基礎工学の知識を身に付ける。

〔授業目標〕

・二級整備士レベルの総論・工学の問題を解く力を身に付け、二級整備士試験に備える。

・単位・公式を覚え、計算問題を繰り返し行い、記憶の持続力と計算の応用力を高める。

・図を活用してイメージを高め、理解力を高める。

〔使用教科書・教材等〕

・計算を解くノウハウ(整研出版社)、パワーポイント資料、プリント資料、i-Pad

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	2	SI単位と用語 (単位の表わし方)
		荷重の計算Ⅰ (テコの原理、軸重の計算、前/後軸と重心の距離の計算)
	2	荷重の計算Ⅱ (レッカー車の軸重計算)
		圧力の計算 (パスカルの原理、圧力と力の違い)
	2	ギヤ比の計算 (変速比、減速比、プラネタリ・ギヤの変速比)
	2	性能曲線の計算Ⅰ (エンジン性能曲線、走行性能曲線、出力の計算、車速の計算)
		性能曲線の計算Ⅱ (トルク・コンバータ性能曲線、スタータ・モータの性能曲線)
	2	走行性能の計算 (速度、加(減)速度、燃料消費率、走行抵抗(力)、出力、メーター誤差)
	2	トルクの計算 (軸トルク、駆動トルク)
		排気量関係の計算 (排気量、圧縮比、平均ピストン速度)
	2	電気の計算 (オームの法則、直列接続の抵抗計算、並列接続の抵抗計算、電圧降下、電力)
	2	基礎工学の復習 (工学系問題の復習、基礎工学教科書の復習)
	2	総合理解度確認 (全項目の練習問題)
	1	自動車総論Ⅱ期末試験

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	故障探求エンジン	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	岡地　智行・渡部　孝昭・木野内　英和(一級自動車整備士)・伝　弘幸・君塚　真之佑						

実務経験教員授業	非該当	総時限	25時限	授業方法	講　義	評価方法	単元・期末試験

〔授業概要・目的〕

・ 低圧電気取扱いの知識・技能を修得する。

・ ハイブリッド、環境問題に関する知識の習得をする。

・ ガソリン／ジーゼル・エンジン異常時の故障原因探究能力をつける。

・ 前期に学んだことを復習することで、確実に修得する。

〔授業の到達目標〕

・ ハイブリッドバッテリに関する作業を安全に行う知識を習得する。

・ 故障探究の手順と手法を理解する。

・ 2年間で学んだことを体系的に理解し車1台分の知識を定着させる。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

二級ガソリン教科書、二級ジーゼル教科書、電気自動車整備特別教育テキスト、プリント、i-Pad

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
	4	低圧電気取扱い業務　電気自動車整備特別教育	
	1	半導体復習　半導体の種類、特性、使われ方理解	
	1	バッテリの種類・	
	1	センサ全般復習　自動車の車輌に使われている各センサの構造、機能、役割復習	
	1	始動装置復習/スタータの出力特性、リダクション・スタータの仕組み、始動特性、スタータの特性、各点検	
	1	充電装置復習/充電装置の構造、作動、点検等復習	
	1	潤滑装置復習/基本的構造役割、応用的機構の理解/冷却装置復習(粘性式ファンクラッチ等)	
	1	吸排気装置/ターボ・チャージャ、スーパ・チャージャ、可変吸気装置の理解	
	1	燃料・油脂/ガソリン、軽油の特徴・分類理解	
	2	ガソリン車の排気ガスの種類と発生理論、対策方法、対策部品・構造を理解	
	2	ガソリン・エンジン　故障原因探求	
	1	LPG燃料噴射装置/燃料噴射装置(ガソリン・LPG)の構造、作動を理解	
	2	SE3級各テキストで今までの学習内容を復習する。	
	2	ジーゼル車の排気ガスの種類と発生理論、対策方法、対策部品・構造を理解	

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	応用エンジン	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03

授 業 計 画 表　　No. 2

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	2	ジーゼルエンジン　故障原因探求
	1	ガソリン・エンジン　総復習
	1	ジーゼル・エンジン　総復習

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	故障原因探求シャシ	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	岡地　智行・渡部　孝昭・木野内　英和(一級自動車整備士)・伝　弘幸・君塚　真之佑						

実務経験教員授業	非該当	総時限	16時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

2級シャシ教科書及びホンダサービスエンジニア3級テキストを基に、2級ガソリン・ジーゼルのシャシ系の構造、機能及び作動を理解し、点検方法を習得させる。

〔授業目標〕

■自動車点検と点検整備要領の習得(保安基準適合の点検と検査基準、実施要領、検査機器取扱い、検査申請手続き)

■電気回路の点検方法の習得(電気回路の理解、点検方法、HDSの概要・機能及び操作方法の理解)

■ホンダ車のABSの概要・構造及び機能の理解(制御作動及び基本点検整備方法、EBD制御、VSA制御の理解)

■ホンダ・リアルタイム4WDの構造・機能の理解(ビスカス式4WD、リアルタイムAWDの構造・機能及び作動の理解)

■ホンダ車のエアコンの概要・構造及び機能の理解(構造・機能及び作動と、整備及び性能テストの方法と注意点の理解)

■電気装置の概要、構造・機能及び整備の理解　(安全装置SRSなど)

〔使用教科書・教材等〕

2級シャシ、ホンダサービスエンジニア3級(SE3)、自動車定期点検整備の手引き

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	1	点検整備要領(24ヶ月点検の作業要領の理解)
	1	保安基準適合性の点検(保安基準・検査機器取り扱い及び検査基準と検査申請要領の理解)
	2	電気装置　電装の基礎(電気の基礎、テスタの知識、配線図の知識の理解、習得)
	1	電動サーボブレーキシステム(システムの概要、構造・機能及び作動と整備技術の理解)
	1	EPB(構造・機能の理解、制御作動・整備技術・サービストークの理解)
	2	ホンダリアルタイム4WD(4WDシステム全体概要の理解、構造・機能・作動及び整備技術の理解)
	4	オートエアコン(概要　構造・機能・作動及び整備技術の理解)
	2	安全装置　SRSエアバック(装置の構成・作動及び機能の理解、整備　脱着・作動処理)
	2	VSA(構造・機能、制御作動・整備技術の理解)

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	新技術	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	浅井直道・岡地智行・木野内　英和・大石　尚樹（一級自動車整備士） 伝　弘幸・河智是明・前田優祐						

実務経験教員授業	非該当	総時限	6時限	授業方法	講　義	評価方法	今期評価なし

〔授業概要・目的〕

・最新技術の知識、メンテナンス技能を修得する

〔授業目標〕

・アトキンソン･サイクルの理論・特徴を理解する

・ホンダセンシングの作動・仕組みを理解する

・EPBの作動・仕組みを理解する

〔使用教科書・教材等〕

二級ガソリン、二級シャシ、SE3級ハード編

No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	3	最新エンジン構造とアトキンソン・サイクルの理解
	3	運転支援システム　Honda　SENSING　EPB機能及び構造

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車検査	小教科目	自動車検査	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期

教科担当	駒崎 勝紀・大石 尚樹(一級自動車整備士)・河智 是明・成松 樹生・前田 優祐・小川 幸雄

実務経験教員授業	非該当	総時限	13時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

2級シャシ教科書及びホンダサービスエンジニア3級テキストを基に、2級ガソリン・ジーゼルのシャシ系の構造、機能及び作動を理解し、点検方法と検査を習得させる。

〔授業目標〕

■ホンダ車の動力伝達機構の概要・構造及び機能を理解(各動力伝達装置の特徴・制御作動及び基本点検整備方法)

■ホンダ車の新機構の構造、機能及び作動を理解(運転支援システム・EPB・スマートキーシステム)

■ホンダ車のパワーステアリングの構造・機能及び作動の理解(油圧式パワステアリング、油圧ポンプの構造・機能及び作動)

(電動パワーステアリングの種類、構造・機能及び作動とトルクセンサの構造・作動、コントロールユニットの制御の理解)

■ホンダ車の「多重通信」、「外部診断機」及び「振動・騒音に関する知識」についての理解

■各部構造機能についての復習と、点検整備作業及び検査作業の項目と基準及び方法の理解

〔使用教科書・教材等〕

2級シャシ、サービスエンジニア(SE3)、法令教本

授 業 計 画 表	No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	1	電子制御5AT(構造・作動・制御などの理解)
	1	ATの整備　(測定及び整備方法の理解)
	1	ステアリング装置の復習(油圧、電動パワーステアリング装置の復習)
	1	CVT(構造・機能及び作動、基本点検及び自己診断機能の理解、測定及び整備方法の理解)
	1	AT復習(練習問題と解説による復習)
	1	ホンダ・油圧式パワーステアリング(ステアリング、ポンプ・ロータリバルブの構造及び作動の理解)
	1	ホンダ・電動パワーステアリング(構造及び機能の理解、作動と制御の理解)
	1	運転支援システム　、Honda SENSING(構造及び機能の理解)
	1	検査ライン(基準・機器の取扱いの復習)
	1	外部診断機(活用方法及び自己診断機能の理解)
	1	ホンダ車の新機構(商品概要と新機構及び整備、多重通信の概要・機能及び作動についての理解
	1	振動・騒音全般技術　(概要及び知識の習得)
	1	期末学科試験

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備に関する法規	小教科目	自動車法規	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	浅井　直道・岡地　智行(一級自動車整備士) 河智　是明・前田　優佑・伝　弘幸						

実務経験教員授業	非該当	総時限	13時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

・自動車整備士に必要な法規(道路運送車両法、道路運送車両法の保安基準)を理解する。

〔授業目標〕

・自動車整備士として仕事をしていく上で関係する法令を、理解、習得する。

・実車写真及び教科書内過去問などにより法令の内容及び用語の理解を深める。

〔使用教科書・教材等〕

法令教本(公論出版社)、パワーポイント資料、i-Pad

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	1	自動車に対する法規制の概要 (自動車に関する法令の種類と法体系の解説)
		道路運送車両法 (自動車の種類、登録、封印、打刻、臨時運行許可)
	1	登録制度 (登録の一般的効力・種類、封印、打刻、臨時運行許可制度)
		保安基準 (自動車の構造・装置)
	1	点検整備制度 (日常点検、定期点検、車種別定期点検基準、点検整備記録簿、分解整備の定義)
	1	検査制度 (検査の種類と概要、自動車検査証・標章、車両番号標)
	1	認証制度 (自動車分解整備事業、認証基準、分解整備記録簿、分解整備事業者の遵守事項)
	1	指定制度 (優良自動車整備事業者の認定、指定自動車整備事業者の指定、設備の維持、
		自動車検査員、保安基準適合証、指定整備記録簿、限定保安基準適合証)
	1	自動車の構造 (用語の定義、長さ・幅・高さ、最低地上高・計算、車両総重量・軸重等、
		安定性、最小回転半径)
	1	自動車の装置・原動機及びシャシ関係 (原動機及び動力伝達装置、走行装置、操縦装置、
		かじ取り装置、施錠装置、制動装置、緩衝装置、燃料装置、電気装置)
	1	自動車の装置・車体関係 (車枠及び車体、巻込み防止装置、突入防止装置、座席ベルト、窓ガラス)
	1	自動車の装置・公害防止関係 (騒音防止装置、有害ガス発散防止装置、黒煙測定、オパシメータ、
		窒素酸化物排出自動車等の特例)
	1	自動車の装置・灯火関係Ⅰ (走行用前照灯、すれ違い用前照灯、配光可変型前照灯、灯火の個数、
		車幅灯、側方灯及び側方反射器、番号灯)
	1	自動車の装置・灯火関係Ⅱ (尾灯、駐車灯、後部反射器・大型後部反射器、再帰反射材)
	1	自動車の装置・灯火関係Ⅲ (制動灯・補助制動灯、後退灯、方向指示器、緊急制動表示灯、
		非常点滅非常灯、その他の灯火等の制限) 自動車の装置・運転操作・緊急自動車等

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	応用エンジン	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	岡地　智行・渡部　孝昭・木野内　英和(一級自動車整備士)・伝　弘幸・君塚　真之佑						

実務経験教員授業	非該当	総時限	30時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験　期末試験　レポート評価

〔授業概要・目的〕

・ サーキットテスタに加え、オシロスコープ、外部診断機の使用方法を学習する。

・ システムボードを通して電気回路の読取り、テスタの使用方法を学習する。

・ 様々なエンジンの調整、メンテナンス方法を習得する。

〔授業の到達目標〕

・ 各測定器、診断機の操作方法、作動原理を理解し、１人でも操作できるようにする。

・ 電気回路を理解し回路図から測定箇所を判断できるようにする。

・ エンジンの分解、組立、調整を手順通り作業できるようにする。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

各教材車両、教材エンジン、オシロスコープ、外部診断機、モジュールシート、二級ガソリン教科書

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	4	導入(学科及び実習授業の説明)
	2	オシロスコープ操作と波形点検
	2	システムボード回路点検
	4	タイミングベルト脱着(SOHC直列エンジン)
	4	タイミングベルト脱着(V型エンジン)
	2	バランサ機構の理解
	2	可変バルブ機構の理解
	4	HDS(外部診断機)の取扱と自己診断
	4	点火装置(実車で正常な状態での電圧測定、点火時期及び各制御の確認を実施)
	2	総合スキル・チェック

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	応用ジーゼル	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	岡地　智行・渡部　孝昭・木野内　英和(一級自動車整備士)・伝　弘幸・君塚　真之佑						

実務経験教員授業	非該当	総時限	30時限	授業方法	実験	評価方法	実習試験　期末試験　レポート評価

〔授業概要・目的〕

・ 始動装置・充電装置の概要が理解できること。

・ ジーゼル・エンジンの燃料噴射系が理解できること。

〔授業の到達目標〕

・ スタータモータ、オルタネータの点検を正確に行う事ができる。

・ ジーゼルエンジンンの構造、特徴を理解する。

・ コモンレール式高圧燃料噴射装置の構成部品、作動原理を理解する。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

各教材車両、教材エンジン、単品部品(サプライポンプ、コモンレール)、二級ジーゼル教科書、モジュールシート

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	4	①前期前半振返り　②後半授業説明と車両点検
	4	始動装置(実車で正常状態の電圧測定、回路構成理解)
	4	充電装置(実車で正常状態の電圧測定、回路構成理解)
	4	ターボチャージャー(実車で過給有無を体感、データの違いから制御を理解)
	4	ジーゼル単気筒エンジン(GD320)の分解・組付(測定データから作動を理解)
	4	単品エンジン分解・組立て(コモンレール式エンジン、過流室式エンジンを分解、組立と理解)
	4	サプライポンプの分解・組立て
	2	総合スキル・チェック

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	応用シャシ実習	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	駒崎 勝紀・大石 尚樹(一級自動車整備士)・河智 是明・成松 樹生・前田 優祐・小川 幸雄						

実務経験教員授業	非該当	総時限	60時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験　期末試験　レポート評価　取組加減

〔授業概要・目的〕

学科で学んだ二級ガソリン・ジーゼルのシャシの構造・機能及び作動を現物を使用しての実習作業を行なう

ことにより、再度認識と理解度向上を図る。

〔授業の到達目標〕

■動力伝達装置・ブレーキ装置(圧縮空気式制動倍力装置)、ステアリング装置、電気装置

(灯火装置、空気調和装置、保安装置)の概要、構造・機能及び整備

■定期点検(12ヶ月点検)の基本作業の手順、方法と帳票類の記入方法の習得

■e－Dealer及びPIT管理システムの概要と基本操作の習得と業務フロー及び時間・お客様意識の体得

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準はレポート評価及び授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの

1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る

1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

教材実車(スパイク、N-BOX、FREED、VEZEEL)PC、日産4AT単品、プラネタリギヤ模型、

各ステアリングギヤBOX単品、各オイルポンプ単品、ブレーキ装置単品(エア・油圧式・ブレーキバルブ)

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
	4	■導入①授業内容の説明(学習の目的、目標について)	
	4	■12ヶ月点検整備①(12ヶ月点検整備項目の内容及び点検要領)	
	4	■シャシ基礎整備①(基本的な作業所作、及び機器の使用を理解)	
	4	■灯火装置(灯火装置の構造・機能の理解、脱着、点検、測定)	
	4	■日産4AT①　(単品とモジュール＆スキルチェックによる実習)	
	4	■日産4AT②　(単品とモジュール＆スキルチェックによる実習)	
	4	■エアコン(冷房サイクルの理解、実車による冷媒サイクルの分解・組付け・点検)	
	4	■12ヶ月点検整備②(帳票類(作業指示書、記録簿)の作成及び記載内容の理解)	
	4	■パワー・ステアリング①　(実車によるステアリングギヤBOX脱着)	
	4	■パワー・ステアリング②　(単品とモジュール＆スキルチェックによる実習)	
	4	■大型ブレーキ　(単品とモジュール＆スキルチェックによる実習)	

教科	実習 自動車整備作業	科目	応用シャシ実習	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期

授 業 計 画 表　　No. 2

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	4	■保安装置（回路
	4	■e－Dealer ＆ PIT管理システムの概要の理解
	4	■シャシ基礎整備②（基本的な作業所作、及び機器の使用を理解）
	4	■総合復習

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	故障原因探究エンジン	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	岡地　智行・渡部　孝昭・木野内　英和(一級自動車整備士)・伝　弘幸・君塚　真之佑						

実務経験教員授業	該当	総時限	54時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験　単元試験　レポート評価

〔授業概要・目的〕

・ 故障時の症状理解と故障探究法を取得する。

・ 実車における整備作業・点検作業方法を取得する。

・ 万一の場合の救命救急手法、AEDの使用方法を習得する。

〔授業の到達目標〕

・ 電子制御装置のセンサの作動・各制御内容を理解する。

・ 心肺蘇生及びAEDの取り扱いができること。

・ サービスマニュアルを基にエンジンの点検及び部品交換作業ができること。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

各実習車両、単品教材、HDS、AED練習キット、サーキットテスタ、二級ガソリン教科書、二級ジーゼル教科書、

モジュールシート、電気自動車整備特別教育テキスト

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
○	4	後期前半導入(実習編)　後期前半実習授業説明　新規導入リフト取扱講習	
○	2	救急法の習得(心臓マッサージや人口呼吸の重要性、AEDの使用時のポイント)	
○	2	ハイブリッド車／低圧の活線作業	
○	4	エンジンルーム点検／燃料装置系統点検	
○	4	故障探求　始動装置	
○	4	電子制御装置センサ復習	
○	4	故障探求　エンジン本体	
○	4	後期後半導入(実習編)　後期後半実習授業説明　電気回路作製	
○	8	実車シリンダ・ヘッド交換	
○	4	故障探求　①(車両の症状から故障個所を特定)	
○	4	故障探求　②(HDS(外部診断機)の情報を基に故障個所を特定)	
○	4	総合故障探求(基本的故障探求の仕上げ)	
○	2	ジーゼルエンジン復習	
○	2	ハイブリッド車整備(IPU周辺の分解・取り外し)	

教科	実習 自動車整備作業	科目	故障原因探究エンジン	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期

授 業 計 画 表　　No. 2

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
○	2	総合スキルチェック

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	故障原因探求シャシ実習	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	駒崎 勝紀・大石 尚樹(一級自動車整備士)・河智 是明・成松 樹生・前田 優祐・小川 幸雄						

実務経験教員授業	該当	総時限	24時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験　期末試験　レポート評価　取組加減

〔授業概要・目的〕

学科で学んだ二級ガソリン・ジーゼルのシャシの構造・機能及び作動を現物を使用しての実習作業を行なう

ことにより、再度認識と理解度向上を図る。

〔授業の到達目標〕

■定期点検の意義と基本作業の習得(方法・手順、実践的接客対応、公害発散防止装置の理解)

■検査機器(検査ライン)を使用しての検査業務の方法と検査基準及び判定と調整方法の習得

■エアコンの点検整備作業(冷媒回収再生装置を用いた主要部品の脱着で、実践的な作業方法と注意点を理解する)

■外部診断機(HDS及びDSTーi)、サーキットテスタを用い、実践的な故障探求を学ぶ

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準はレポート評価及び授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの

1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る

1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

教材実車(スパイク、N-BOX、FREED、VEZEL)、PC(HDS、電子配線図、電子サービスマニュアル)

DSTーi、冷媒回収再生装置、検査機器(検査ライン)

授 業 計 画 表			No.1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
○	4	■エアコン(エアコンの点検整備作業、主要部品脱着要点及び注意点)	
○	4	■故障探求①(設定した故障を電子サービスマニュアル・電子配線図を用いた故障探求の実践)	
○	4	■検査ライン①(検査機器の使用方法と調整作業の習得)	
○	4	■24ヶ月点検①(公害発散防止装置の理解と点検要領の習得)	
○	4	■24ヶ月点検②(実作業に特化した実習を行い、技術とお客様意識の習得)	
○	4	■eーDealer ＆ PIT管理	

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	実新技術	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	岡地　智行・渡部　孝昭・木野内　英和(一級自動車整備士)・伝　弘幸・君塚　真之佑						
	駒崎 勝紀・大石 尚樹(一級自動車整備士)・河智 是明・成松 樹生・前田 優祐・小川 幸雄						

実務経験教員授業	非該当	総時限	16時限	授業方法	実習・実技	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

・最新技術の知識、メンテナンス技能を修得する

〔授業目標〕

・アトキンソン･サイクル・エンジンを実現するための構造を確認する

・ホンダSENSINGのエーミング方法を習得する

・新機種の新機能の構造・整備を理解する

・最新測定機器の使用方法を習得する

〔使用教科書・教材等〕

コージェネ用エンジンYR1、L13B, L15B, LEB H-1エンジン、GB3 フリード、KC2 レジェンド、NC1 NSX

SE3級ハード編

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	4	アトキンソン・サイクルエンジンの理解(YR1エンジン分解・組付)
	4	最新エンジン構造の確認(L13B、L15B、LEB-H1エンジンの分解・観察)
	1	HONDA SENSINGの取扱い(SENSINGの種類及び車種による違い)
	1	・VSA/標識認識(VSAメンテナンス概要、VSA設定方法、標識認識概要、標識認識検証)
	1	・衝突安全装置(衝突防止機能の概要、衝突防止機能の検証)
	1	・アラウンドビューモニター(アラウンドビューモニターの概要、アラウンドビューモニターの検証)
	1	レーダーエイミング(レーダー機能の概要、エイミング学習)
	1	・カメラエイミング(カメラ機能の概要、エイミング学習)
	1	・4輪アライメントテスター(アライメントテスター概要、アライメント測定調整)
	1	・タイヤ交換(タイヤ交換作業、交換のコツの理解)

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	実践自動車整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	通期

教科担当	岡地　智行・渡部　孝昭・木野内　英和(一級自動車整備士)・君塚　真之佑						
教科担当	駒崎 勝紀・大石 尚樹(一級自動車整備士)・河智 是明・成松 樹生・前田 優祐・小川 幸雄						
実務経験教員授業	該当	総時限	62時限	授業方法	実習・実技	評価方法	今期評価なし

〔授業概要・目的〕

・実践現場での基本を習熟し自分のスキルを高めることで、入社に向けた不安を払拭する。

〔授業目標〕

・企業実習 (実社会での体験を通し、就業への目的意識を明確にさせ,学園生活で生かす。)

・サービス業務の職場を実践的に体験し、お客様意識と効率を考えた作業方法を体験する。

・4輪の点検整備手順を順序良く、効率的に作業が出来る。

・実践現場の接客応対の習熟。

・不得意分野を実車/単品の機構をを確認して理解度を高める。

〔使用教科書・教材等〕

定期点検整備の手引き

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
○	4	24ヶ月点検整備① (企業実習前の基本点検復習)	
○	2	タイヤ空気充填講習	
○	40	企業実習 (実習内容は受け入れ企業の判断による)	
○	16	総合的な動作理解 (登録試験問題に出題される部品・機構の作動構造確認)	

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車検査作業	科目	自動車検査実習	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	駒崎 勝紀・大石 尚樹(一級自動車整備士)・河智 是明・成松 樹生・前田 優祐・小川 幸雄						

実務経験教員授業	非該当	総時限	32時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験　期末試験　レポート評価　取組加減

〔授業概要・目的〕

学科で学んだ二級ガソリン・ジーゼルのシャシの構造・機能及び作動を現物を使用しての実習作業を行なう

ことにより、再度認識と理解度向上を図る。

〔授業の到達目標〕

■CVTストールテスト・油圧測定の方法の習得と測定結果の意味の理解

■24ヶ月点検の基本作業と検査ラインによる検査方法の理解と習得　■ブレーキオーバーホールの習得

■故障探求整備の習得　■CVT単品分解組立てによる理解習得

■外部診断機(HDS及びDSTーi)による各種テスト及びカスタマイズの理解と習得

■CVT単品分解組立てによる理解習得

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準はレポート評価及び授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの

1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る

1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

教材実車(スパイク、N-BOX、FREED、VEZEL)、CVT単品、PC(HDS、電子配線図、

電子サービスマニュアル)、DSTーi、ブレーキキャリパ単品、油圧測定機器、検査機器(検査ライン)

授 業 計 画 表			No.1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
	4	24ヶ月点検③(eーDealerによる帳票発行とPIT管理)	
	2	ブレーキオーバーホール(ブレーキキャリパ単品)	
	4	ホンダ・CVT　(単品とモジュール＆スキルチェックによる実習)	
	4	故障探求②　(灯火装置に設定した故障の探求の実践)	
	1	CVT油圧測定とCVTストール回転テスト	
	1	外部診断機の活用(外部診断機の操作・応用)	
	4	検査ライン②　検査ライン全ての検査作業の実施(AUTOヘッドライトテスタ含む)	
	8	トランスミッション脱着(重整備の知識及び技術の習得)	
	4	eーDealer ＆ PIT管理③(帳票の出力、接客応対の実践)	

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	総合自動車Ⅰ	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	岡地　智行・渡部　孝昭・木野内　英和(一級自動車整備士)・伝　弘幸・君塚　真之佑						
	駒崎 勝紀・大石 尚樹(一級自動車整備士)・河智 是明・成松 樹生・前田 優祐・小川 幸雄						

実務経験教員授業	非該当	総時限	4時限	授業方法		評価方法	学科試験

〔授業概要・目的〕

・学科授業の理解度を試験にて確認する

〔授業目標〕

・詳細は試験規定にのっとって実施する。

〔使用教科書・教材等〕

・試験問題　・マークシート

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
	1	応用エンジン期末試験	
	1	応用シャシ中間試験	
	1	応用ジーゼル期末試験	
	1	応用シャシ期末試験	

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	総合自動車Ⅱ	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	岡地　智行・渡部　孝昭・木野内　英和(一級自動車整備士)・伝　弘幸・君塚　真之佑 駒崎 勝紀・大石 尚樹(一級自動車整備士)・河智 是明・成松 樹生・前田 優祐・小川 幸雄						

実務経験教員授業	非該当	総時限	3時限	授業方法		評価方法	学科試験

〔授業概要・目的〕

・学科授業の理解度を試験にて確認する

〔授業目標〕

・詳細は試験規定にのっとって実施する。

〔使用教科書・教材等〕

・試験問題　・マークシート

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	1	故障探求エンジン中間試験
	1	故障探求シャシ期末試験
	1	故障探求エンジン期末試験

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	安全運転学Ⅱ	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	通期
教科担当	岡地　智行・渡部　孝昭・木野内　英和(一級自動車整備士)・伝　弘幸・君塚　真之佑 駒崎 勝紀・大石 尚樹(一級自動車整備士)・河智 是明・成松 樹生・前田 優祐・小川 幸雄						

実務経験教員授業	非該当	総時限	8時限	授業方法	実習・実技	評価方法	今期評価なし

〔授業概要・目的〕

・自動車業界の一員であることを自覚し、交通社会において安全運転の実践と普及を推進する

・ライディングアドバイザー(二輪)、セーフティコーディネーター(四輪)の資格を取得する

〔授業目標〕

・規律の大切さと他人との協調を養う。

・安全運転の思想『人間尊重』を学ぶ。

・安全運転の思想から、整備時の安全に対する取り組みまで広げて理解する。

・日常運転時の危険予知トレーニングを行う。

〔使用教科書・教材等〕

・安全運転教育テキスト　・交通教育センターレインボー埼玉教習車両(二輪、四輪)

・i-Pad、KYTレポート用紙

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
		二輪コース
	1	◆安全な乗り方のアドバイス方法を習熟
		◆救急法　・気道確保、止血、AEDの使用方法実践
	1	◆車両の取り回し方法実践、二人乗りアドバイス方法の習熟
	2	◆慣熟走行
		◆ブレーキング　・目標制動、パイロンスラローム、タンデム走行、ABS/CBS体験
		◆反応制動　・生理的限界の確認
		◆コーナリング　・オフセットスラローム
		四輪コース
	1	◆静的実技　・日常点検・運転姿勢・乗降車・視死角
	1	◆ブレーキング　・急制動・反応制動
	1	◆車両感覚　・車庫入れ・縦列駐車
	1	◆ロールプレイ　・店頭安全運転アドバイス要領
		危険予知トレーニング
	1	◆5月連休前危険予知トレーニング　・動画KYTを用いた危険予知訓練
	2	◆7月連休前危険予知トレーニング　・動画KYTを用いた危険予知訓練
	1	◆12月連休前危険予知トレーニング　・動画KYTを用いた危険予知訓練

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	接客実務	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	岡地　智行・渡部　孝昭・木野内　英和(一級自動車整備士)・伝　弘幸・君塚　真之佑 駒崎 勝紀・大石 尚樹(一級自動車整備士)・河智 是明・成松 樹生・前田 優祐・小川 幸雄						

実務経験教員授業	非該当	総時限	10時限	授業方法	講　義	評価方法	今期評価なし

〔授業概要・目的〕

・サービス業務において即戦力となる人材を育成する

・SE3級資格取得に必要な知識を身に付ける

〔授業目標〕

・サービス活動を行うにあたっての基本的な接遇を身につける

・サービス活動の基礎知識、フロントの基本業務を理解する

・サービス活動をとりまく基礎的な知識を理解する

〔使用教科書・教材等〕

・SE3級ソフト編　・i-Pad

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	2	・接遇の基本(あいさつの基本、言葉づかいと話し方、好ましい立ち居振る舞い、電話対応の基本、
		名刺交換の基本)
	2	・サービスの基本(サービスとは何か、お客様第一優先、サービス部門の役割)
	2	・フロント業務の基本(フロント業務の心得、予約管理、受入れ業務)
	1	・お引渡し業務(お引渡し準備、お引渡しの手順)
	1	・整備業務の基本(整備業務とは、整備作業の進め方)
	2	・周辺知識(部品の基礎)

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	損害保険一般　基礎単位	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	岡地　智行・渡部　孝昭・木野内　英和(一級自動車整備士)・伝　弘幸・君塚　真之佑 駒崎 勝紀・大石 尚樹(一級自動車整備士)・河智 是明・成松 樹生・前田 優祐・小川 幸雄						

実務経験教員授業	非該当	総時限	10時限	授業方法	講　義	評価方法	今期評価なし

〔授業概要・目的〕

1. 整備士として働く上で、損害保険に対しての基礎知識を身につける。

2. 損害保険募集人資格を取得する。

〔授業目標〕

・自動車だけでなく広く保険の仕組みを理解する

・実務においてお客様に説明できる知識を身に付ける

〔使用教科書・教材等〕

・損害保険一般(基礎単位)教育テキスト、i-Pad

授 業 計 画 表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	1	・損害保険の基礎知識(損害保険の概要、損害保険の基礎)
	1	・コンプライアンス1(正しい販売活動、保険業法、消費者契約に関する法律)
	1	・コンプライアンス2(犯罪収益移転防止法、個人情報保護法)
	1	・代理店の日常業務(保険契約締結後の代理店の業務、事故対応と保険金支払い)
	1	・損害保険商品1(損害保険商品の概要、くるまの保険)
	1	・損害保険商品2(住まいの保険、からだの保険)
	1	・損害保険の周辺知識(損害保険と法律・税金、近隣業界・社会保険制度)
	1	・人権問題を考える(損害保険の募集と主な人権)
	2	・損害保険募集人基礎単位試験(外部会場)

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	特別講座(総合自動車整備)	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科2年	作成月日	23/04/03
						開講期	通期

教科担当	岡地 智行・渡部 孝昭・木野内 英和(一級自動車整備士)・伝 弘幸・君塚 真之佑
	駒崎 勝紀・大石 尚樹(一級自動車整備士)・河智 是明・成松 樹生・前田 優祐・小川 幸雄

実務経験教員授業	非該当	総時限	70時限	授業方法	講 義	評価方法	今期評価なし

〔授業概要・目的〕

・Hondaの社内資格である四輪サービスエンジニア3級の資格取得

・国家二級整備士資格を取得するための特別授業

・定期試験前の各科目総合復習授業

〔授業目標〕

・Honda独自の機構、整備技術の習得

・教科書の記載内容を現物で確認し、構造・作動の理解度を向上させる

・各々の苦手項目を抽出し、項目別の授業を行うことで国家二級整備士資格を取得する

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕

・SE3級ハード編 ・SE3級ソフト編 ・登録試験対策問題集 ・各単元教科書

授 業 計 画 表 No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	8	科目別総合復習授業
	49	・登録試験対策授業
	10	・損害保険 募集人資格
	3	・ホンダ四輪サービスエンジニア3級試験対策
	1	・ホンダ四輪サービスエンジニア3級試験

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	自動車構造力学	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	川﨑　智仁（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	6時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

1. 機械構造の違いによる応力のかかり方を学ぶ

2. 応力の計算方法を学ぶ

〔授業目標〕

・力学的要素について、知識を習得する。

・応力の基礎的な計算ができる

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

補助テキスト、練習問題

授 業 計 画 表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	1	基礎計算力
	1	三平方の定理、三角関数の応用
	1	力の合力、分力の考え方、応力の計算（モーメント、軸力）、SI単位の基本的定義
	2	期末試験、期末試験見直し

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	自動車電気・電子	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	豊田 剛（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	18時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

1. 電気の基礎知識を復習することで、1級自動車整備士の電子制御装置理解の基礎とする

〔授業目標〕

・国家試験、電子電気回路の計算問題が解ける

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

1級自動車整備士　エンジン電子制御装置、補助テキスト

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	1	導入
	1	電気の基礎　オーム、回路抵抗＆計算・電気の基礎復習
	1	電気の基礎　磁気、電磁力、電磁誘導　・コイルとコンデンサに対する交流の特徴
	1	電気の基礎　半導体・半導体の基礎復習
	1	電気の基礎　FET、磁気抵抗、圧電素子・バイポーラトランジスタとFETの違い
	1	電気回路・断線、短絡時の各部の電圧
	6	サーキット・テスタの種類・分圧回路、分流回路の理解・テスタ内部抵抗を考慮した計算・測定
	1	オシロスコープの活用・電圧と時間の概念、トリガーの概念の理解
	1	外部診断機の活用・基本的な取り扱いと機能・データリスト、DTCの確認
	2	総合復習
	1	期末試験
	1	期末試験見直し

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	新材料・新技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	川﨑　智仁（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	24時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

1．1級教科書「自動車新技術」に記載の新機構について理解する

〔授業目標〕

・1級整備士の筆記試験合格レベルの新技術に関する知識を習得する

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

1級自動車整備士　自動車新技術

授 業 計 画 表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	2	ハイブリッド車・概要、特徴、構造、機能
	2	ハイブリッド車・作動、盛業、点検、整備
	2	CNG自動車（圧縮天然ガス自動車）・概要、構造、機能
	2	CNG自動車（圧縮天然ガス自動車）・作動、盛業、点検、整備
	2	筒内噴射式ガソリン・エンジン・概要、構造、機能
	2	コモンレール式高圧燃料噴射システム・DE燃料噴射装置の復習・電子制御式とｺﾓﾝﾚｰﾙ構造機能
	1	総合復習
	1	単元試験
	1	単元試験見直し
	2	無段変速機（CVT）・概要、構造、機能
	2	車両安定制御装置・ABS構造、機能・VSCS構造、機能
	2	SRSエアバッグ及びプリテンショナーシートベルト・概要、構造、機能
	1	総合復習
	1	期末試験
	1	期末試験見直し

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	総合診断技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	川﨑　智仁(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	非該当	総時限	24時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　単元･期末試験

〔授業概要・目的〕

1. 1級自動車整備士として、各、センサーやアクチュエータの回路構成を理解する。

2. 各、センサーやアクチュエータ回路の信号波形を理解し、適した測定方法を理解する。

〔授業目標〕

・回路構成の仕組みを理解し、理論的な診断技術を習得する。

・外部診断機のデータ内容から故障診断が出来る技術を習得する。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕

1級　エンジン電子制御装置　SE2級ハード編

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	2	高度診断技術・導入・概要説明・基礎振り返り
	4	・センサ①(論理信号、リニア信号)
	4	・センサ②(周波数信号、その他信号)
	1	単元試験
	1	単元試験見直し
	4	・アクチュエータ①(プラス駆動、マイナス駆動、スイッチング駆動)
	4	・アクチュエータ②(リニア駆動、その他)
	2	総合復習
	1	期末試験
	1	期末試験見直し

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	総合診断技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期

教科担当	久保　雅照(1級自動車整備士)

実務経験教員授業	該当	総時限	8時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

1．1級自動車整備士として、お客様個人の不満や、さまざまな感情に的確に対応し効果的な会話の進め方を

習得すると共に問診での高度診断の方法の習得する。

〔授業目標〕

・サービスアドバイザーの役割、内容を知り、整備作業以外の重要なポイントを理解。

・お客様に対する問診・作業説明・応酬話法等についての知識を理解する。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕

一級自動車整備士　総合診断・環境保全・安全管理

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
○	1	サービス産業の概要
○	2	自動車整備事業におけるサービスの提供
○	2	自動車関連法令などの適切な運用とその活用
○	1	応酬話法
○	1	期末試験
○	1	期末試験見直し

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	応用整備技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	豊田 剛（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	該当	総時限	18時限	授業方法	講　義	評価方法	評価なし

〔授業概要・目的〕

1．電気・電子回路、部品に実際に触れ、実際の電子制御回路の理解を深める。

〔授業目標〕

・電子パーツ、半導体等の構造、機能、特徴うを理解できる。

・オペアンプの使い方が理解できる。

・簡単な回路設計ができる。

〔学習評価の基準〕

この科目については、試験やレポート等での評価はせず、授業出席し聴講により履修とする。

〔使用教科書・教材等〕

電装品構造、PC、回路シミュレータソフト、ブレッドボード、電子パーツ、オシロスコープなど

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
○	4	電気・電子回路の基本となるオームの法則を理解する。
○	2	オペアンプの理解とオペアンプを使用した三角波発振回路の原理を理解する。
○	2	回路設計ソフトを使い三角波発振回路を設計設計した回路を回路シュミュレータソフトで作動確認する。
○	2	設計した回路を実際にブレッドボードで組み立てて、オシロスコープで波形を観測する。
○	2	ブレッドボードで試作した回路を基盤設計ソフトで基盤設計する。
○	4	設計を行った基盤を実際に基盤上で作成する。
○	2	出来上がった基盤を電動カートに実装し走らせる。

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	応用整備技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	川﨑　智仁(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	非該当	総時限	36時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

1．1級シャシ電子制御装置の内容を理解し、技術の習得を行う。

〔授業目標〕

・AT、EPS、ABS、オートA／Cの各センサ、アクチュエータの信号波形を理解する。

・1級シャシの各項目での仕組みを理解し、理論的な診断技術を習得する。

・1級エンジンでのECUの働きを、CAN通信の高度故障診断技術を習得する。

・国家1級自動車整備士の1級シャシ高度整備技術、高度故障診断を合格レベルまで理解する。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る(再提出の必要がある)

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕

1級シャシ電子制御装置　1級エンジン電子制御装置

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	6	一級　電子制御AT・回路構成、センサ、アクチュエータ、ECUの制御、故障診断
	6	一級　電子制御EPS・回路構成、センサ、アクチュエータ、ECUの制御、故障診断
	2	復習
	1	単元試験
	1	単元試験見直し
	6	一級　電子制御ABS・回路構成、センサ、アクチュエータ、ECUの制御、故障診断
	6	一級　電子制御AC・回路構成、センサ、アクチュエータ、ECUの制御、故障診断
	4	一級エンジン・CAN、ECU・CAN通信、ECUの制御、故障診断技術
	2	復習
	1	期末試験
	1	期末試験見直し

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	環境安全論(環境)	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	川﨑　智仁(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	非該当	総時限	10時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

1．1級整備士の要件としての環境問題に対応できる知識を学ぶ

〔授業目標〕

・環境問題に対する法令を理解できる。

・1級自動車整備士の国家試験問題内容を理解できる。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

1級自動車整備士　総合診断･環境保全･安全管理

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	1	自動車に関わる環境問題・地球的規模、広域的、局地的問題を知る
	1	資源の有効活用、産業廃棄物処理・ﾘﾃﾞｭｰｽ、ﾘﾕｰｽ、ﾘｻｲｸﾙの違いを知る
	1	自動車リサイクル法・リサイクル法、マニフェストを知る
	1	フロン回収と破壊処理・特定フロン、代替フロンの影響
	1	バッテリー処理
	1	整備工場の環境対応
	1	ホンダの取り組み・ホンダとしての環境への対応
	1	地球環境の現状と影響
	1	期末試験
	1	期末試験見直し

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	環境安全論(安全)	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	川﨑　智仁(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	非該当	総時限	6時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

1. 1級整備士の要件としての環境問題に対応できる知識を学ぶ

2. 校内を巡回し、不安全行動と不安全状態を観察、発見する目を養う。

〔授業目標〕

・国家試験1級自動車整備士の試験問題である、環境安全の安全項目について合格レベルまで理解できる

・不安全行動、不安全状態を発見し、対策の検討が出来る。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

1級自動車整備士　総合診断･環境保全･安全管理

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	3	安全管理の意義、災害のあらまし　災害防止
	1	職場における防火防災、応急処置について
	1	期末試験
	1	期末試験見直し

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 機器の構造・取扱い	小教科目	機器の構造取扱い	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	川﨑　智仁（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	12時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

1．振動・騒音の測定機器の種類と使い方を学ぶ

〔授業目標〕

・異音診断の手法を理解し、各測定機器を使用し異音の診断を行う方法がわかる。

・1級自動車整備士試験出題の、振動、騒音計算問題が解ける。

・振動、騒音の種類が分かる。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

1級シャシ電子制御装置

授　業　計　画　表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	2	振動・騒音の基礎、振動の性質・可聴範囲　自由振動と固有振動
	2	剛体振動と弾性振動　音（振動）のあらわし方・振動強制力　デシベルの計算
	2	騒音の測定方法　ノイズ感知テスタ　振動の測定方法、 振動・騒音分析器
	2	振動・騒音の計算式・シャシ各部の振動・タイヤユニフォミティとまとめ
	2	復習
	1	期末試験
	1	期末試験見直し

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車検査	小教科目	自動車検査	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	川﨑　智仁（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	6時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

1．道路運送車両方の検査基準に沿った検査業務を学ぶ。

〔授業目標〕

・検査機器の使い方を理解し、適切な調整が出来る。

・検査業務の流れ、指定整備記録簿の記入方法を理解している。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕

2級シャシ、法規

授 業 計 画 表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	4	自動車検査機器取り扱い・測定・調整・計算
	1	期末試験
	1	期末試験見直し

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備に関する法規	小教科目	整備に関する法規	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	川﨑　智仁(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	非該当	総時限	10時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

1．1級自動車整備士試験に合格出来る法律知識の習得

〔授業目標〕

・1級自動は整備士試験に対応できる自動車整備に関する法規がわかる。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕

法令教本

授 業 計 画 表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	2	道路運送車両法
	2	整備主任者、分解整備、点検整備の基準
	4	保安基準・最近改正された法令
	1	期末試験
	1	期末試験見直し

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車概論	小教科目	自動車概論Ⅰ	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	川﨑　智仁（1級自動車整備士）、宇賀　広章（一級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	10時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

1．1級教科書全般の内容の理解を深める

〔授業目標〕

・1級自動車整備士試験問題がわかる。

・1級自動車整備士教科書の苦手領域を克服する。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

前期使用1級自動車整備士教科書

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	8	苦手領域の洗い出しと復習
	1	期末試験
	1	期末試験見直し

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車概論	小教科目	自動車概論Ⅰ	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	川﨑　智仁（1級自動車整備士）、宇賀　広章（一級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	10時限	授業方法	講　義	評価方法	学科試験　期末試験

〔授業概要・目的〕

1．1級教科書全般の内容の理解を深める

〔授業目標〕

・1級自動車整備士試験問題がわかる。

・1級自動車整備士教科書の苦手領域を克服する。

・3年次に学んだ1級教科書を理解し、1級整備士試験問題を合格点レベルの点数が取れる。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

前期・後期 使用1級自動車整備士教科書

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	8	苦手領域の洗い出しと復習
	1	期末試験
	1	期末試験見直し

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 工作作業	小教科目	工作作業	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	豊田 剛（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	6時限	授業方法	講　義	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

1. 工作を行う。

〔授業目標〕

・設計図を作成し、設計図を元に工作を行い完成させる。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	6	構想・設計・工作・課題に対して、自ら構想し、設計を行い、設計図をもとに製作する。

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 測定作業	小教科目	測定作業	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	宇賀広章（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	6時限	授業方法	講　義	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

1．一級整備士レベルでの電気の計測機器についての知識・技術を習得する。

〔授業目標〕

・サーキットテスタ・オシロスコープ・診断機による測定作業が出来る。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

1級　エンジン電子制御装置

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）	
	6	サーキットテスタ、オシロスコープ、診断機による測定	

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	整備技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	久保　雅照(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	該当	総時限	64時限	授業方法	講　義	評価方法	実習試験　　レポート評価

〔授業概要・目的〕

1．1級教科書「エンジン電子制御装置」に記載の内容について理解し、技術を学ぶ。

電源、センサ、アクチュエータ、信号電圧、異常検知、故障診断

〔授業目標〕

・電源、センサ、アクチュエータ、信号電圧、異常検知、故障診断の仕組みを実物で理解する。

・オシロスコープ、外部診断機を活用し、測定ができる。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕

1級自動車整備士　エンジン電子制御装置

授 業 計 画 表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
○	4	センサ回路の確認・点検1
		・導入、機器取り扱い　オシロスコープの取扱　HDSの取扱　スイッチボックスの取扱
○	4	センサ回路の確認・点検2
		・ECU電源　論理信号センサ　異常検知とDTCの確認
		・等価回路の確認　センサ出力値の確認　オシロスコープでの波形観測　DTC検知手法の確認
○	4	センサ回路の確認・点検3
		・リニア信号センサ①　異常検知とDTCの確認
		・等価回路の確認　センサ出力値の確認　オシロスコープでの波形観測　DTC検知手法の確認
○	4	センサ回路の確認・点検4
		・リニア信号センサ②　異常検知とDTCの確認
		・等価回路の確認　センサ出力値の確認　オシロスコープでの波形観測　DTC検知手法の確認

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	整備技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期

授 業 計 画 表　　No. 2

○	4	センサ回路の確認・点検5
		・周波数信号センサ①　異常検知とDTCの確認
		・等価回路の確認　センサ出力値の確認　オシロスコープでの波形観測　DTC検知手法の確認
○	4	センサ回路の確認・点検6
		・周波数信号センサ②　異常検知とDTCの確認
		・等価回路の確認　センサ出力値の確認　オシロスコープでの波形観測　DTC検知手法の確認
○	4	センサ回路の確認・点検7
		・その他のセンサ　異常検知とDTCの確認
		・等価回路の確認　センサ出力値の確認　オシロスコープでの波形観測　DTC検知手法の確認
○	4	センサまとめ
		・これまでのセンサについてまとめ、総合復習を行う。
○	4	アクチュエータ回路の確認・点検1
		・スイッチング駆動アクチュエータ①　異常検知とDTCの確認
		・等価回路の確認　駆動電圧、駆動信号電圧の確認　オシロスコープでの波形観測　DTC検知手法の確認
○	4	アクチュエータ回路の確認・点検2
		・スイッチング駆動アクチュエータ②　異常検知とDTCの確認
		・等価回路の確認　駆動電圧、駆動信号電圧の確認　オシロスコープでの波形観測　DTC検知手法の確認
○	4	アクチュエータ回路の確認・点検3
		・スイッチング駆動アクチュエータ③　異常検知とDTCの確認
		・等価回路の確認　駆動電圧、駆動信号電圧の確認　オシロスコープでの波形観測　DTC検知手法の確認
○	4	アクチュエータ回路の確認・点検4
		・スイッチング駆動アクチュエータ④　異常検知とDTCの確認
		・等価回路の確認　駆動電圧、駆動信号電圧の確認　オシロスコープでの波形観測　DTC検知手法の確認
○	4	アクチュエータ回路の確認・点検5
		・リニア駆動アクチュエータ①　異常検知とDTCの確認
		・等価回路の確認　駆動電圧、駆動信号電圧の確認　オシロスコープでの波形観測　DTC検知手法の確認
○	4	アクチュエータ回路の確認・点検6
		・リニア駆動アクチュエータ②　異常検知とDTCの確認
		・等価回路の確認　駆動電圧、駆動信号電圧の確認　オシロスコープでの波形観測　DTC検知手法の確認
○	4	アクチュエータ回路の確認・点検7
		・リニア駆動アクチュエータ③　異常検知とDTCの確認
		・等価回路の確認　駆動電圧、駆動信号電圧の確認　オシロスコープでの波形観測　DTC検知手法の確認
○	4	アクチュエータまとめ
		・これまでのアクチュエータについてまとめ、総合復習を行う。

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	故障診断	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期

教科担当	久保　雅照(1級自動車整備士)

実務経験教員授業	該当	総時限	40時限	授業方法	講　義	評価方法	実習試験　　レポート評価

〔授業概要・目的〕

1．1級教科書「シャシ電子制御装置」に記載の内容について理解し、技術を学ぶ。

電源、センサ、アクチュエータ、信号電圧、異常検知、故障診断

〔授業目標〕

・電源、センサ、アクチュエータ、信号電圧、異常検知、故障診断の仕組みを実物で理解する。

・オシロスコープ、外部診断機を活用し、測定ができる。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕

1級自動車整備士　シャシ電子制御装置

授 業 計 画 表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
○	8	シャシ電子制御AT　センサ回路/アクチュエータ回路の測定・故障診断
○	8	シャシ電子制御EPS　センサ回路/アクチュエータ回路の測定・故障診断
○	4	見直し
○	8	シャシ電子制御ABS　センサ回路/アクチュエータ回路の測定・故障診断
○	8	シャシ電子制御A/C　センサ回路/アクチュエータ回路の測定・故障診断
○	4	見直し

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	応用整備実務	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	豊田 剛（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	該当	総時限	36時限	授業方法	講　義	評価方法	実習試験　　レポート評価

〔授業概要・目的〕

1. 一般整備作業を通じ技術力、スピード力を身に付ける。

〔授業目標〕

・パーツリスト指示工数以内での、確実な整備作業を行える。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕

各車両サービスマニュアル等

授 業 計 画 表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
○	4	実習導入
○	4	一般整備作業①　内装取り外し
○	4	一般整備作業②　内装組み付け
○	4	一般整備作業③　サスペンション、ブレーキ分解
○	4	一般整備作業④　サスペンション、ブレーキ組み付け
○	4	一般整備作業⑤　エンジン取り外し整備作業
○	4	一般整備作業⑥　エンジン取りつけ整備作業
○	4	一般整備作業⑦　HEVユニット取り外し整備作業
○	4	一般整備作業⑧　HEVユニット取りつけ整備作業

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	応用整備実務	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	豊田 剛（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	該当	総時限	44時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験　　レポート評価

〔授業概要・目的〕

1. 一般整備作業をを通じ技術力、スピード力を身に付ける。

〔授業目標〕

・パーツリスト指示工数以内での、確実な整備作業を行える。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
○	4	一般整備作業①　デファレンシャルの脱着と調整
○	4	一般整備作業②　ストラット、リヤビーム脱着
○	4	一般整備作業③　排気システムの全脱着
○	4	一般整備作業④　ターボシステムの脱着
○	16	一般整備作業⑤　分解組み立てから性能確認
○	4	一般整備作業⑥　足回り分解
○	4	一般整備作業⑦　足回り組み立て・ホイールアライメント調整
○	4	総合復習

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	整備課題研究	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	宇賀 広章 ・豊田 剛・久保 雅照・川﨑 智仁(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	非該当	総時限	72時限	授業方法	実習・実技	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

1. 3年次までに習得した知識、技術を使い、1級らしい自動車整備関連テーマを捉え、課題を研究する。

〔授業目標〕

・グループテーマによる研究及び発展的な個人研究を行い、より自動車整備に関する知識技能を理解習得する。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表 No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	72	1. 概要説明
		2. テーマアップ
		3. テーマ企画・検討
		4. 企画書作成
		5. テーマ企画による作業・検証
		6. 発表会資料作成
		7. 発表会

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車検査作業	小教科目	自動車検査	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	豊田 剛（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	該当	総時限	12時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験

〔授業概要・目的〕

1．検査業務の流れ、機器の取り扱いを身に付ける。

〔授業目標〕

・検査機器を使い、1人で継続検査の検査作業ができる。

・道路運送車両方の検査基準に沿った検査業務、判断、調整が出来る。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕

2級シャシ、法規

授 業 計 画 表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
○	2	サイドスリップ・テスタ/測定方法、調整方法/ハンドルスポーク角の調整方法
○	2	ヘッドライト・テスタ/2・4灯式ヘッドライトの調整
○	2	スピードメータ/測定、テスタの見方　ブレーキ・テスタ/測定値からの合否判定
○	2	排気ガス・テスタ、オパシ・メータ/騒音計
○	4	実習確認試験

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 サービスマネジメント	小教科目	サービスマネジメントⅠ	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	宇賀　広章・豊田　剛・久保　雅照・川崎　智仁(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	非該当	総時限	24時限	授業方法	講　義	評価方法	実習試験

〔授業概要・目的〕

1. サービスフロントとして必要なフロント業務の技術、知識を身につける

〔授業目標〕

・eディーラーの基本操作が出来る(実習確認)

・損害保険、自動車単位の資格取得

・セーフティーローダーの操作ができる(特別教育)

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

損害保険募集人、自動車単位テキスト、巻上げ機特別教育テキスト

授　業　計　画　表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	6	導入・販社でのe－Dealer活用/EPC連携・納品請求書発行
	2	e－Dealer実習確認試験
	8	損害保険募集人・自動車単位研修
	8	実習導入

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 サービスマネジメント	小教科目	サービスマネージメントⅠ	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	宇賀 広章・川崎　智仁・豊田 剛・久保 雅照（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	32時限	授業方法	実習・実技	評価方法	評価なし

〔授業概要・目的〕

1. 振動・騒音の診断技術を習得し、適切な問診につなげる。

2. 一級技術コンクールの企画、準備、運営を行う。

〔授業目標〕

・校内技術コンクールへ参加する

・巻き上げ機の使い方を習得する

・ノイズキャッチャー、オシロスコープ、振動・騒音分析器を使用して振動・騒音の診断が出来ること

〔学習評価の基準〕

この科目については、試験やレポート等での評価はせず、授業出席し聴講により履修とする。

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	8	校内技術コンクールの練習、参加
	4	巻き上げ機講習
	2	振動・騒音（ボディ振動の診断、振動・騒音分析器）
	2	課題研究発表
	2	講話、発表
	14	実習導入

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	経営概論	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	宇賀　広章（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	18時限	授業方法	講　義	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

1．TQMの考え方を知り、仕事の進め方の基本を修得する

〔授業目標〕

・PDCA（DST－PDCA）の基本を理解する

・QCストーリーを実践することにより問題解決手法を理解する

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

Honda品質管理教育　Jコーステキスト

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	2	TQMの基本
	2	QCストーリーの理解・DST－PDCAサイクル
	8	問題解決手法の実践・学校内の改善活動
	2	中間報告会・これまでの活動状況報告
	2	QCストーリーのまとめ・プレゼンテーション資料仕上げとプレゼン練習
	2	QC発表会

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	営業実務	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	宇賀広章（1級自動車整備士）、久保　雅照（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	16時限	授業方法	講　義	評価方法	評価なし

〔授業概要・目的〕

1. 自分の強み理解と他者の強みを理解したうえでのコミュニケーション能力の向上を図る。

2. 自動車、自動車業界についてグループ討議を交えて理解を深める。

〔授業目標〕

・自分の強みを理解する。

・自動車や自動車整備業界にこれからについての知識をたかめる。

・グループ討議で、自分の意見を述べる、他者の意見を聴く力ことができる。

〔学習評価の基準〕

この科目については、試験やレポート等での評価はせず、授業出席し聴講により履修とする。

〔使用教科書・教材等〕

LIFOテキスト

授 業 計 画 表			No. 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）	
	8	LIFO(Life Orientation)・自分の強み分析、自己理解・自分の強みのコントロール・他者理解とコミュニケーション	
	8	グループ討議	

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	営業実務	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	後期
教科担当	宇賀広章（1級自動車整備士）、川﨑智仁（1級自動車整備士）、久保雅照（一級自動車整備士）、豊田剛（一級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	18時限	授業方法	講　義	評価方法	評価なし

〔授業概要・目的〕

1．1級自動車整備士として、お客様への接遇や、会話の進めるための一般常識、商品知識等を学ぶ

〔授業目標〕

・接遇マナー、一般常識を理解している。

・HCで取り扱う商品について、お客様に正しいアドバイスが出来る（オイル、ケミカル、保険）

〔学習評価の基準〕

この科目については、試験やレポート等での評価はせず、授業出席し聴講により履修とする。

〔実務経験のある教員による授業〕

自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、

実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	2	損保講座
	4	ケミカル講座
	2	オイル、油脂講座
	4	接遇マナー研修
	6	ITSS(Innovative Thinking System for Students)革新的思考能力向上講座

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	情報処理実務	対象級	専門課程 一級自動車整備学科3年	作成月日	23/04/03
						開講期	前期
教科担当	宇賀 広章（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	18時限	授業方法	講　義	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

1.マイクロソフトオフィスの基本操作を学ぶ

〔授業目標〕

・ワードを使用し、文書書類の作成が出来る。

・エクセルを使用し、簡単な表計算とグラフ作成ができる。

・パワーポイントを使用し、発表プレゼンテーション資料を作成できる。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	2	ソフトインストール、設定
	4	PowerPoint基本、発表資料作成
	6	PowerPoint発表
	4	エクセル基本操作/表計算、エクセル関数、グラフ作成
	4	PowerPoint応用/Excelのグラフ、表、関数、PowerPointのアニメーションを活用し発表資料作成
	2	PowerPoint発表

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車概論	科目	自動車概論Ⅱ	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	前期
教科担当	春日勇太(1級自動車整備士) 沖田健二(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	該当	総時限	48時限	授業方法	講　義	評価方法	単元・期末試験

〔授業概要・目的〕

1級教科書 ・エンジン電子制御装置 ・シャーシ電子制御装置 ・自動車新技術

・総合診断/環境保全/安全管理 ・法令教材の内容を復習、理解を深める

〔授業の到達目標〕

1級小型自動車整備士、筆記試験合格レベルの知識を習得する

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

1級教科書 ・エンジン電子制御装置 ・シャーシ電子制御装置 ・自動車新技術

・総合診断/環境保全/安全管理 ・法令教材(日本自動車整備振興会連合会)

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
○	4	自動車概論基礎項目(計算)確認
○	8	エンジン電子制御装置(電気回路、診断装置、センサ、アクチュエータ、CAN通信、ECUの制御) 復習
○	4	エンジン系新技術(HEV、CNG、筒内噴射、コモン・レール) 復習
○	8	シャシ電子制御装置(AT、EPS、ABS、AC、振動・騒音) 復習
○	4	シャシ系新技術(CVT、車両安定制御装置、SRS) 復習
○	4	エンジン系故障診断(センサ、アクチュエータ、CAN通信) 復習
○	4	シャシ系故障診断(AT、EPS、ABS、AC、振動・騒音) 復習
○	4	環境保全・安全管理 復習
○	4	法令(道路運送車両法、保安基準) 復習
○	2	中間単元試験
○	2	期末試験

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車概論	科目	自動車概論Ⅱ	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	後期
教科担当	春日勇太(1級自動車整備士)、大塚光善 (1級自動車整備士)、田中満広(1級自動車整備士)、沖田健二(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	非該当	総時限	28時限	授業方法	講　義	評価方法	単元・期末試験

〔授業概要・目的〕

模擬試験を実施し、試験後の見直しを通じて1級教科書　の内容を理解する

〔授業の到達目標〕

1級小型自動車整備士、筆記試験合格レベルの知識を習得する

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

実力確認テスト問題

1級教科書　・エンジン電子制御装置　・シャーシ電子制御装置　・自動車新技術

・総合診断/環境保全/安全管理　・法令教材(日本自動車整備振興会連合会)

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	2	実力確認試験①　見直し確認
	2	実力確認試験②　見直し確認
	2	実力確認試験③　見直し確認
	2	実力確認試験④　見直し確認
	2	実力確認試験⑤　見直し確認
	2	実力確認試験⑥　見直し確認
	2	中間単元試験
	4	新技術　実力確認試験
	2	実力確認試験⑧　見直し確認
	2	環境保全・安全管理　実力確認試験
	2	振動・騒音　実力確認試験
	2	実力確認試験⑨　見直し確認
	2	期末試験

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実務実習 評価実習	科目	専門実習	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	後期
教科担当	春日勇太(1級自動車整備士)、大塚光善 (1級自動車整備士)、田中満広(1級自動車整備士)、沖田健二(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	非該当	総時限	128時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験

〔授業概要・目的〕

社会に於いて通用する、接客・接遇技術を実車を使ってロールプレイング形式にて実践研修を行う

点検整備記録簿の作成

〔授業の到達目標〕

登録試験(口述試験)合格レベルで問診・引渡し説明ができること

点検整備記録簿の記入方法を理解し、お客様への説明が出来る

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

総合診断・環境保全・安全管理、法令教材 (日本自動車整備振興会連合会)

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)	
	20	接客・接遇実践研修	点検実施後, 点検記録簿作成研修
	20	接客・接遇実践研修	点検整備依頼の受付研修
	20	接客・接遇実践研修	点検整備車両の引き渡し研修
	20	接客・接遇実践研修	故障診断手法研修
	20	接客・接遇実践研修	異音修理時の受付研修
	20	接客・接遇実践研修	クレーム対応研修
	8	接客・接遇実践研修	総復習

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実務実習 評価実習	科目	応用実習	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	前期
教科担当	田中　満広（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	該当	総時限	40時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験

〔授業概要・目的〕

点検整備、一般整備、重整備作業を行う

電子マニュアルの操作を習得する

e-Dealerの基本操作を習得する

〔授業の到達目標〕

販社でも通用するレベルの点検整備、一般整備作業ができること

電子マニュアルを操作し整備作業の手順、作業時間を確認できること

e-Dealerによる修理伝票の発行、整備説明が出来ること

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

電子サービスマニュアル、e-Dealerシステム

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
○	4	2年点検整備(ステップ・ワゴン)2人作業　PIT管理システム運用(e-Dealer)
○	4	2年点検整備(FIT)2人作業　PIT管理システム運用(e-Dealer)
○	4	2年点検整備(フリードスパイク)2人作業　PIT管理システム運用(e-Dealer)
○	4	2年点検整備(ステップ・ワゴン)2人作業　ブレーキロータ測定　PIT管理システム運用(e-Dealer)
○	4	2年点検整備(ステップ・ワゴン)2人作業　ブレーキインナーキット交換　PIT管理システム運用(e-Dealer)
○	4	エンジン・センサー類脱着（ステップワゴン）
○	4	1年点検整備（フリードスパイク）　ヘッドランプバルブ交換　PIT管理システム運用(e-Dealer)
○	4	1年点検整備（フリードスパイク）1人作業　レンズ交換　PIT管理システム運用(e-Dealer)
○	4	パーキングブレーキ内蔵リヤブレーキキャリパ分解組立（単品）
○	4	インナードラムパーキングブレーキの分解組立（ステップワゴン）

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実務実習 評価実習	科目	総合実習	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	前期
教科担当	沖田健二(1級自動車整備士)、大塚光善 (1級自動車整備士)、田中満広(1級自動車整備士)、春日勇太(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	該当	総時限	92時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験

〔授業概要・目的〕

軽作業から重作業まで実際に現場で想定される整備技術の習得

オシロスコープやサーキット・テスタを活用した診断方法の習得(交流波形の測定、コイル・コンデンサの測定)

実車によるHDSの習得

〔授業の到達目標〕

構造を確認し効率の良い作業が出来ること

コイルのインダクタンス、リアクタンスを理解する。コンデンサの容量計算ができること

HDS(外部診断機)を使用しセンサ、アクチュエータの電圧が確認できること

真の実効値、平均値実効値方式のテスタの理解、使い分けが出来ること

オシロスコープによる交流波形測定を習得するオシロスコープを操作し交流波形が測定できること

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

電子マニュアル、オシロスコープ、サーキットテスタ、HDS 他

授 業 計 画 表 No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
○	4	ドア・アウトサイドハンドル脱着 シート表皮脱着(CR-Z)
○	4	油圧パワーステアリング・ポンプ分解組立(ステップワゴン)
○	4	HDSによるエンジン制御状態の確認(N-BOX)
○	12	エアコン部品の脱着, 構造確認(N-BOX)
○	12	エンジン脱着 タイミングチェーン交換(N-BOX)
○	4	ドライブレコーダー取付(FIT)
○	24	振動・騒音実習(ステップワゴン, スパイク, N-BOX, FIT, シビック)
○	8	スライドドア脱着(ステップワゴン、N-BOX)
○	4	コイルの特性、交流抵抗 ｲﾝﾀﾞｸﾀﾝｽ、ﾘｱｸﾀﾝｽの理解
○	4	コンデンサの特性、特性の理解、容量の計算
○	4	実車センサ、アクチュエータ作動確認 HDS故障診断

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実務実習 評価実習	科目	総合実習	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	前期

授 業 計 画 表			No. 2
○	4	オシロによる交流波形の測定、 真の実効値、平均値実効値方式の理解	
○	4	電子制御実習復習	

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実務実習 評価実習	科目	総合実習	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	後期
教科担当	沖田健二(1級自動車整備士)、大塚光善 (1級自動車整備士)、田中満広(1級自動車整備士)、春日勇太(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	該当	総時限	56時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験

〔授業概要・目的〕

実車にて故障作成、故障診断

オシロスコープによる各信号確認手法を習得する

e-Dealerを活用しながら点検整備をする

ホンダSE2級を取得するための実習を行う

〔授業の到達目標〕

故障コードなしの電気回路・機械的故障の作成が出来、問診からの故障絞込み,テスタ活用による故障診断が出来ること

オシロスコープを操作し各信号波形が測定できること

e-Dealerを活用し販社と同様の作業が出来ること

SE2級合格レベルの車両確認、故障診断が出来ること

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

電子サービスマニュアル、SE2級テキスト(ハード編) 他

授 業 計 画 表 No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
○	8	電気回路に於ける機械的故障診断(OBDなし)
○	8	電装系装備の構造理解 オシロスコープによる信号確認(シビック) PPによる資料作成
○	8	電装系装備の構造理解 オシロスコープによる信号確認(N-BOX) PPによる資料作成
○	16	点検整備 e-Dealerの活用 実践に則した点検整備実習
○	12	SE2級実習 SE2級テキストに則した 車両確認、故障診断手法の習得
○	4	SE2級実習 ソフト領域のロールプレイング

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実務実習 体験実習	科目	体験実習(企業実習)	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	前期
教科担当	沖田健二(1級自動車整備士)、大塚光善 (1級自動車整備士)、田中満広(1級自動車整備士)、春日勇太(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	該当	総時限	124時限	授業方法	実習・実技	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

整備工場等の実務を経験することで、学校では得難い経験を得る

一級自動車整備士に必要な要件、実践力を身につける

〔授業の到達目標〕

組織、各部門とのつながり、実際の作業の流れを理解する

CS活動の実際の取り組み方を確認する

接遇応対、顧客管理方法、顧客へのアクセス方法を実際のお店(現場)にて理解する

作業安全への取り組み、効率的な作業方法、について販社の現場にて体験する

実整備作業を体験することで実践力、応用力を高める

環境への配慮について販社の現場にて体験する

報告・連絡・相談の実践

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表 No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	4	インターンシップ(企業実習)導入研修 4月上旬:1日
	120	インターンシップ(企業実習) 4月上旬:1日間、 6月中旬から30日間程度
		実習内容: 実習先企業の実習内容に準ずる
		実習時間: 実習先修業時間とする
		インターンシップ期間中、1級担当講師が実習先を訪問し実習内容を確認する

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 サービス マネジメント	科目	サービスマネジメントⅡ	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	前期
教科担当	田中満広（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	該当	総時限	16時限	授業方法	実習・実技	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

SE2級テキストを活用しHONDA車にとって必要な知識を習得する

〔授業の到達目標〕

ホンダのサービススタッフとして相応しい知識(ハード面、ソフト面)を身につける

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

HAST　SE2級　テキスト(ハード編)

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
○	16	HAST　SE2級　ハード編

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 サービス マネジメント	科目	サービスマネジメントⅡ	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	後期
教科担当	大塚光善（1級自動車整備士）、田中満広（1級自動車整備士）、春日勇太（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	該当	総時限	12時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験　　レポート評価

〔授業概要・目的〕

SE2級テキストを活用しHONDA車にとって必要な知識を習得する

ホンダ販売店のサービスフロントシステム環境の構造を理解し、基本的な作業を習得する

〔授業の到達目標〕

ホンダサービスエンジニア1級　ハード編、ソフト編を習得し、合格レベルに達すること

e-Dealer内のサービス領域、営業領域、業務領域の基本知識を身につける

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

サービスエンジニア2級　ソフト編 DVD

授 業 計 画 表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
○	2	HAST　SE2級　復習
○	2	HAST　SE2級　学科試験
○	8	e-Dealer研修

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	一般	科目	経営概論	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	前期
教科担当	大塚光善（1級自動車整備士）、田中満広（1級自動車整備士）、春日勇太（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	8時限	授業方法	講　義	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

Gr. 討議: 自動車業界や、その関連業界について意見を出し合い将来についてのありたき姿等を考察する

〔授業の到達目標〕

Gr. 討議: あるテーマに対し様々な意見を聞き、受入れることで相互理解を深め、まとめることができること。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	4	国家一級取得に対する考え方等に関してのGr討議
	4	自動車を取り巻く環境や，自動車新機構についてGrで調べ資料を作成する

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	一般	科目	経営概論	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	後期
教科担当	大塚光善（1級自動車整備士）、田中満広（1級自動車整備士）、春日勇太（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	12時限	授業方法	講　義	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

本田技研サービス人材育成課による特別講座 （新機種情報、新技術情報、販社の現状について）

技術コンクール企画

〔授業の到達目標〕

新機種情報、新技術情報、サービス現場の状況を知ることで4月からの就業スタートに向けての準備に役立てる

技術コンクールの通じて、物事を一から築き上げる企画力を身につける

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

サービス人材育成課準備テキスト

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	4	本田技研サービス人材育成課による特別講座
	8	技術コンクール企画、準備

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	一般	科目	営業実務	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	前期
教科担当	大塚光善（1級自動車整備士）、田中満広（1級自動車整備士）、春日勇太（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	9時限	授業方法	講　義	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

インターンシップ準備：インターンシップに臨むに当たっての課題の明確化

インターンシップ報告会： インターンシップの経験・実績をもとにプレゼンテーションを行う

Gr討議資料発表会

〔授業の到達目標〕

インターンシップ準備：インターンシップでの心構えを共有し、取り組むべき課題を明確にする

インターンシップ報告会：各自が決めた課題の到達度や実際に現場に行ってみて得たこと、課題を報告できること

Gr討議資料発表会： 資料内容を明確に伝える手法を身につける

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表　　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	1	インターシップ準備
	4	インターンシップ報告会
	4	Gr討議資料発表会

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	一般	科目	営業実務	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	後期
教科担当	大塚光善（1級自動車整備士）、田中満広（1級自動車整備士）、春日勇太（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	25時限	授業方法	講　義	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

研究科技術コンクール運営：３年生が選手として参加する技術コンクールの準備・運営（問題作成、進行）をする

Gr. 討議：世の中のタイムリーな話題や各自興味があるテーマについて討議する

登録試験準備：登録試験キックオフ

〔授業の到達目標〕

技術コンクールの準備・運営を通じて各自担当業務に責任を持ちチームワークの大切さを経験しコンクールを完結させる

あるテーマに対し様々な意見を聞き、受入れることで相互理解を深め、まとめることができること

登録試験に向けた準備を図る

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

サービス人材育成課準備テキスト

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	2	研究科技術コンクール運営準備
	4	コンクール実施
	4	登録試験準備：口述資料作成
	2	実力確認試験の自己分析
	1	登録試験準備
	12	登録試験準備：グループ討議による試験対策

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	一般	科目	情報処理実務	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	前期
教科担当	沖田健二(1級自動車整備士)、大塚光善 (1級自動車整備士)、田中満広(1級自動車整備士)、春日勇太(1級自動車整備士)						

実務経験教員授業	非該当	総時限	16時限	授業方法	講　義	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

パワーポイントの基本的な操作を習得する

Excelの応用操作を身につける

〔授業の到達目標〕

パワーポイントでインターンシップ報告用資料を作成できること

Excelで各数式を活用したシートを作成する(開発タブの活用)

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5:特に成績優秀なもの　4:成績良のもの　3:成績普通のもの　2:成績やや劣るもの　1:成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5:90 ～100点　4:75 ～ 89点　3:60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5:非常に優れている　4:優れている　3:普　通　2:やや劣る　1:劣る(再提出の必要がある)

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容(項目)
	8	インターンシップ報告用資料作成
	2	Excelの応用操作の説明
	6	Excelシートの作成(課題2つ)

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	一般	科目	情報処理実務	対象級	専門課程 一級自動車整備学科4年	作成月日	23/04/01
						開講期	後期
教科担当	沖田健二（1級自動車整備士）						

実務経験教員授業	非該当	総時限	2時限	授業方法	講　義	評価方法	レポート評価

〔授業概要・目的〕

Exelを活用した表計算、グラフ作成

〔授業の到達目標〕

Exelの基本的な操作を再履修し、試験結果の表計算書とグラフを作成する

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5･4･3･2･1」の5段階で表わす。

5：特に成績優秀なもの　4：成績良のもの　3：成績普通のもの　2：成績やや劣るもの　1：成績特に劣り、不合格のもの

各試験点数の評価は　5：90 ～100点　4：75 ～ 89点　3：60 ～ 74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レポートの評価は　5：非常に優れている　4：優れている　3：普　通　2：やや劣る　1：劣る（再提出の必要がある）

〔使用教科書・教材等〕

授 業 計 画 表　No. 1

実務経験	標準時限	授業内容（項目）
	2	自分の試験成績を基にExcellにて表、グラフの作成